紀伊山地の霊場と参詣道

2019年度造園学会全国大会ミニフォーラム
生活と風景　風景・文化・信仰のダイアグラム

# 熊野参詣道伊勢路における巡礼空間の保護と継承

外宮

観音庵

伊勢紀伊国界

連続峠越

宿の憩い

南海の眺望

熊野新宮

伊藤文彦*　伊藤　弘**

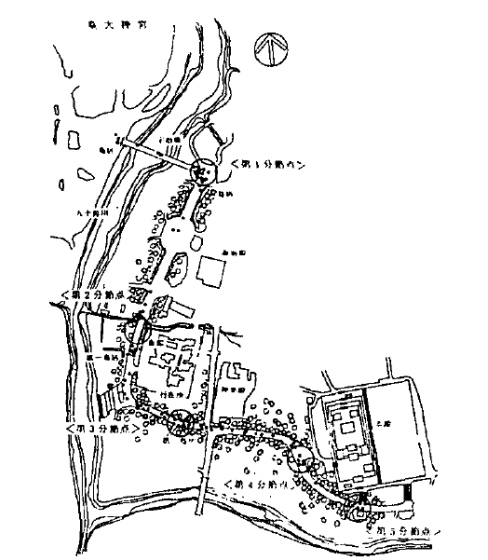
*三重県教育委員会　**筑波大学芸術系

# 1．はじめに

紀伊山地の霊場と参詣道

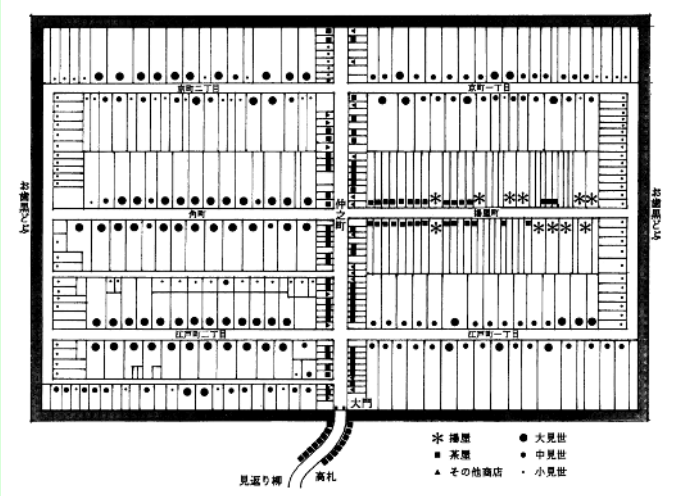
- **巡礼路の保護の方法論の課題**
  巡礼者はいかなる体験をしていたのか
  巡礼路はいかに保護すべきか

- **空間と人の関係を扱った研究**



図―3（d）皇大神宮

船越ら（1988）



図－4　新吉原の空間構成

下村ら（1992）

表－4　時代ごとの体験頻度の高い眺めの変遷

| | 視対象 | 景観種類 | 視点場 | 記述数 |
|---|---|---|---|---|
| 1900年以前 | 島と松 | シークエンス | 船上 | 6 |
| | 島と海 | 俯瞰景 | 展望地 | 5 |
| 戦前期 | 島と松 | シークエンス | 船上 | 6 |
| | | 眺望 | 船上 | 3 |
| | | 俯瞰 | 宿 | 3 |
| | 時節と環境 | 眺望 | 船上 | 3 |
| | | シークエンス | 船上 | 3 |
| | | 俯瞰景 | 展望地 | 2 |
| | | | 宿 | 1 |
| | 全体 | 俯瞰景 | 展望地 | 4 |
| | 地形 | 俯瞰景 | 展望地 | 3 |
| | 建物と環境 | 眺望 | 船上 | 2 |
| | | | その他 | 1 |
| | 産業と環境 | シークエンス | 船上 | 1 |
| | | | 電車・道路 | 1 |
| | | | その他 | 1 |
| 戦後期 | 島と松 | 眺望 | 宿 | 1 |
| | | | 旧跡 | 1 |
| | | | 電車・道路 | 1 |

視対象と景観種類を組み合わせた記述数３件以上のものを抽出

伊藤弘（2011）

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

熊野参詣道伊勢路位置図

利用の盛期

　17世紀から19世紀

利用者

　西国巡礼目的の民衆

歩行方向

　伊勢から熊野へ一方通行

現況

　国史跡

　「熊野参詣道 伊勢路」

　世界遺産

　「紀伊山地の霊場と参詣道」

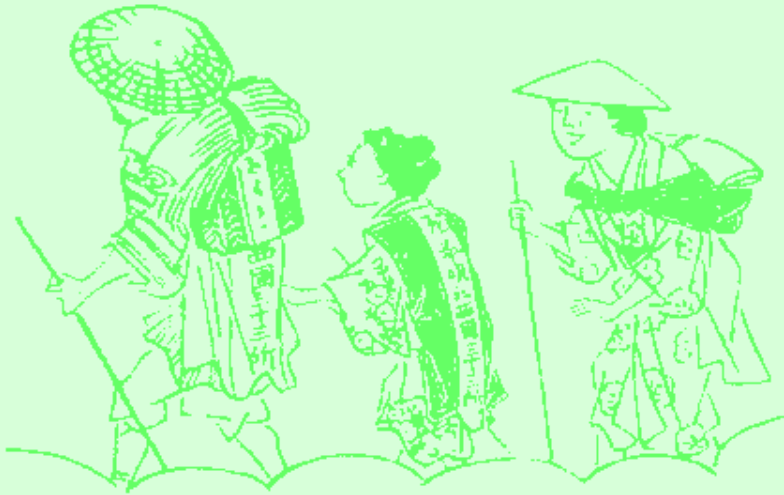
# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

紀伊山地の霊場と参詣道

分析対象：道中案内

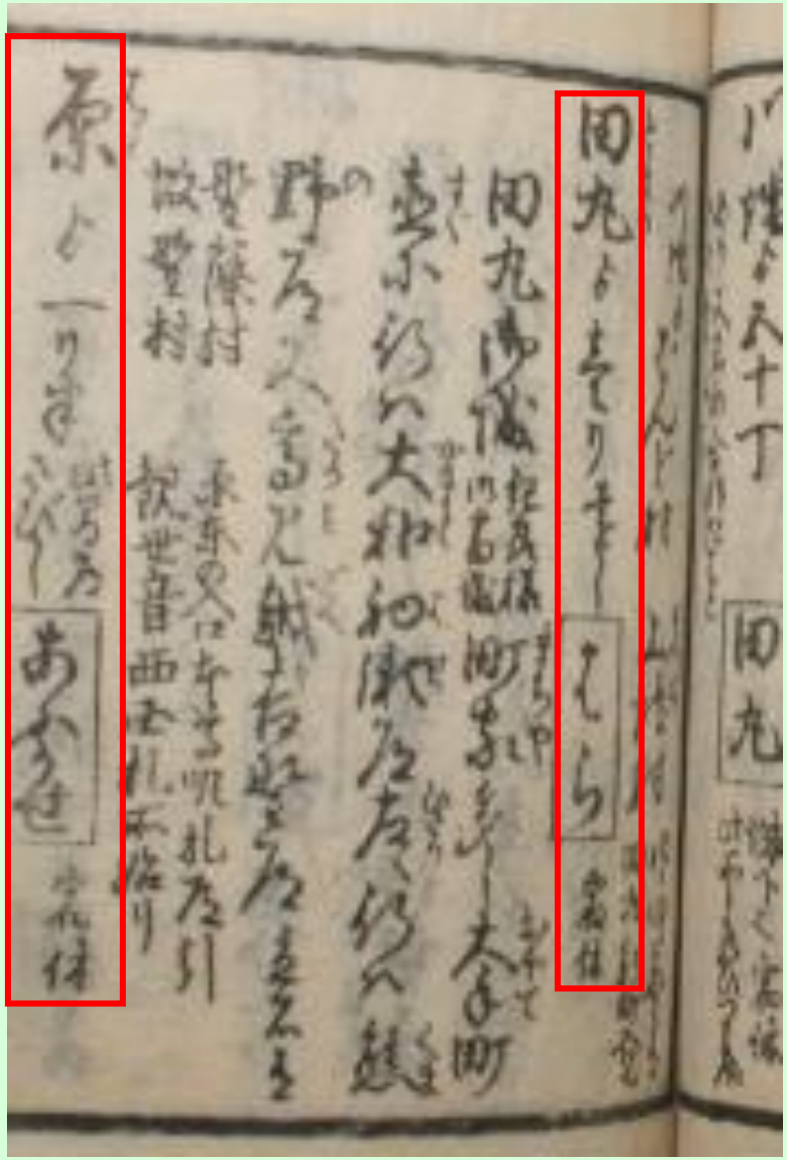
・元禄年間（17世紀）から天保年間（19世紀）までに刊行のもの

・多くのガイドブックで紹介される重要な礼拝施設・見所を抽出



# 2．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

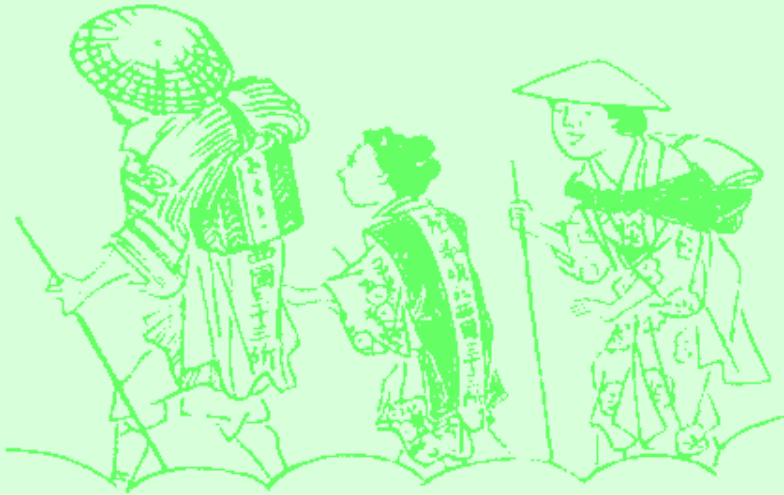
紀伊山地の霊場と参詣道



分析対象：道中案内

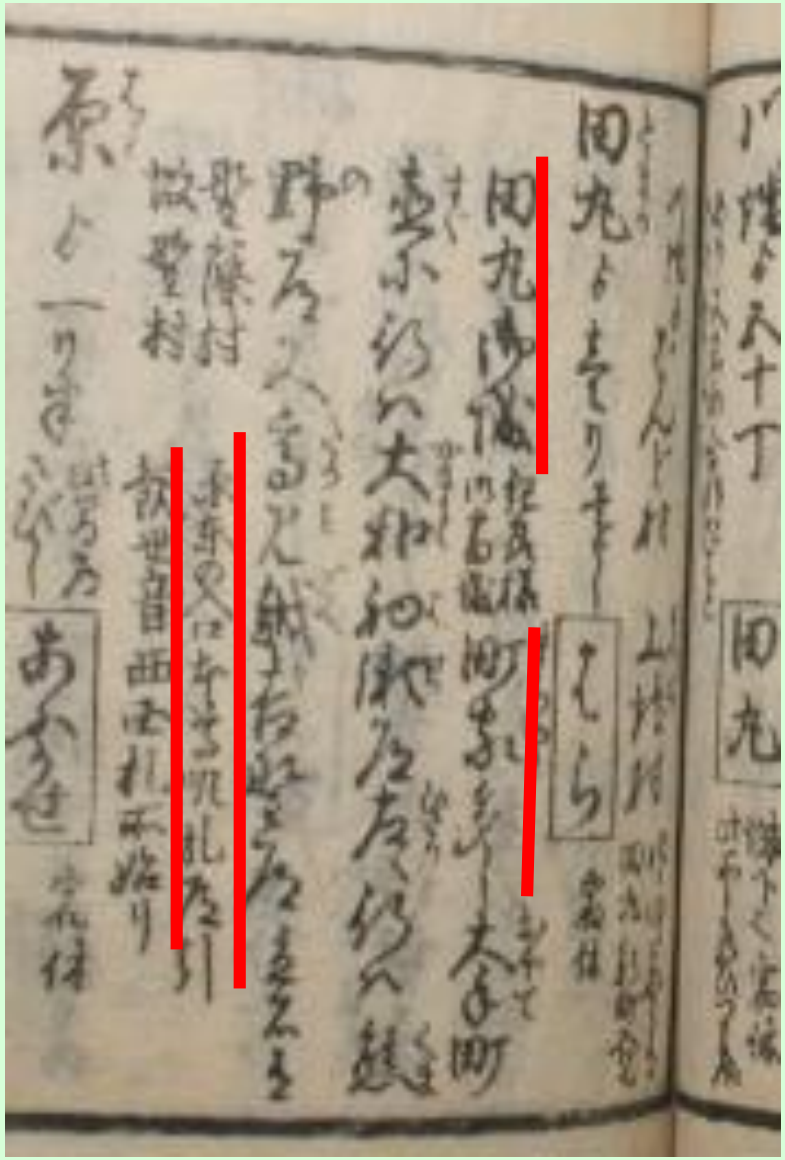
・元禄年間（17世紀）から天保年間（19世紀）までに刊行のもの

・多くのガイドブックで紹介される重要な礼拝施設・見所を抽出



# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

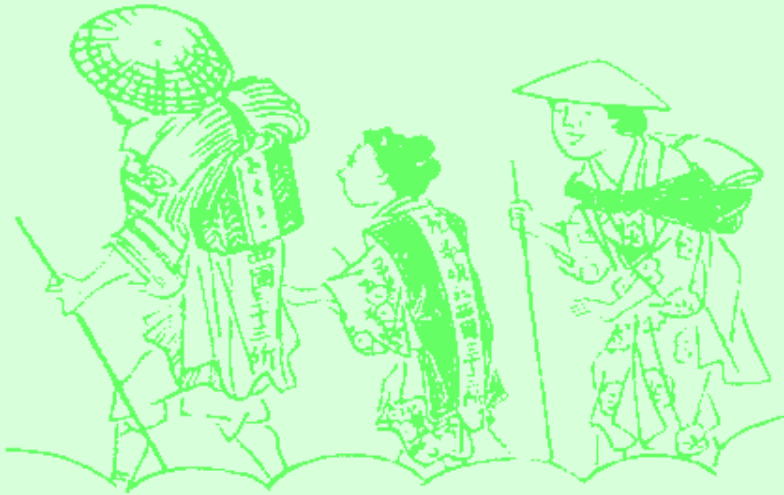
紀伊山地の霊場と参詣道



分析対象：道中案内

・元禄年間（17世紀）から天保年間（19世紀）までに刊行のもの

・多くのガイドブックで紹介される重要な礼拝施設・見所を抽出



# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

紀伊山地の霊場と参詣道

抽出された重要な礼拝施設

観音庵
（石佛庵）

千福寺
（柳原観音）

瀧原大神宮
（瀧原宮）

天狗岩窟
（岩屋堂）

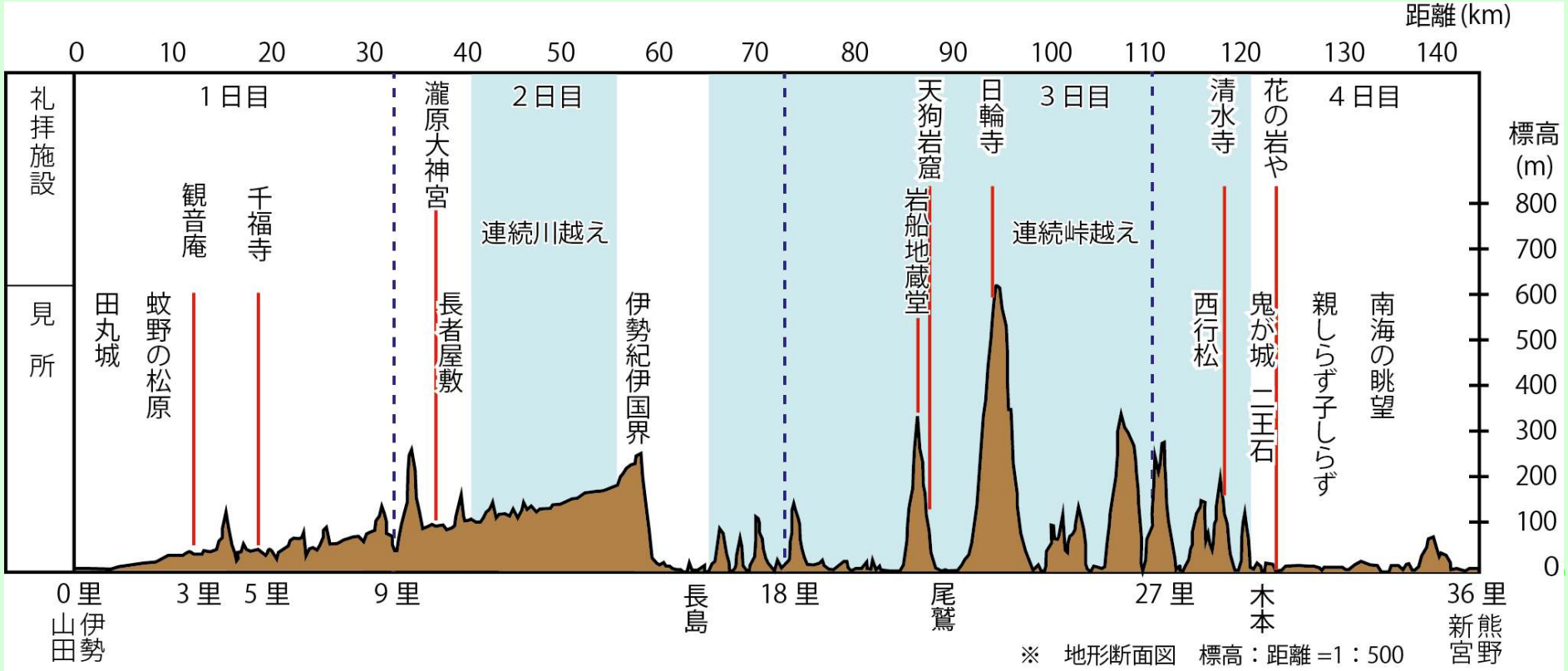
岩船地蔵堂
（岩船地蔵堂跡）

日輪寺
（荒神堂）

清水寺
（清水寺跡）

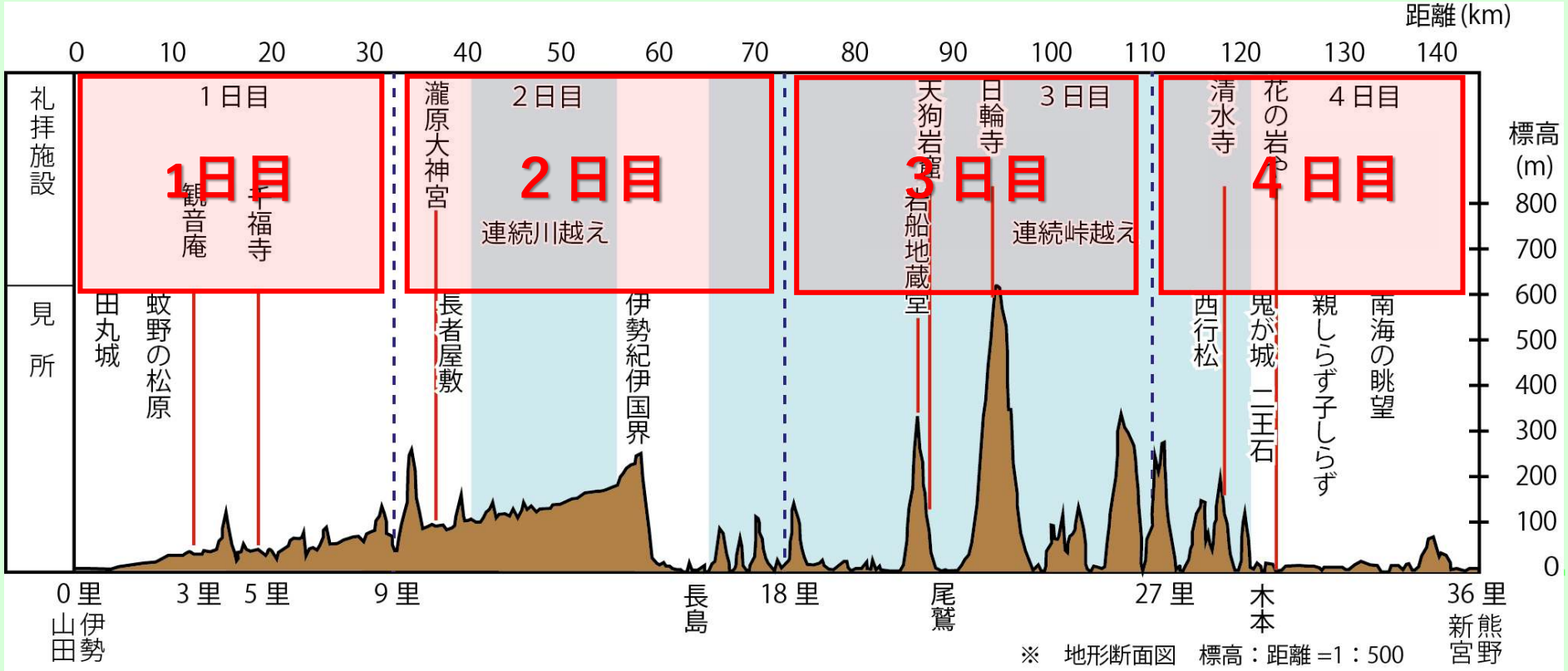
花の岩や
（花の窟神社）

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素




礼拝施設と見所の立地

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素




礼拝施設と見所の立地

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

紀伊山地の霊場と参詣道

抽出された重要な見所

田丸城・田丸城下

蚊野の松原

長者屋敷

伊勢紀伊国界

西行松

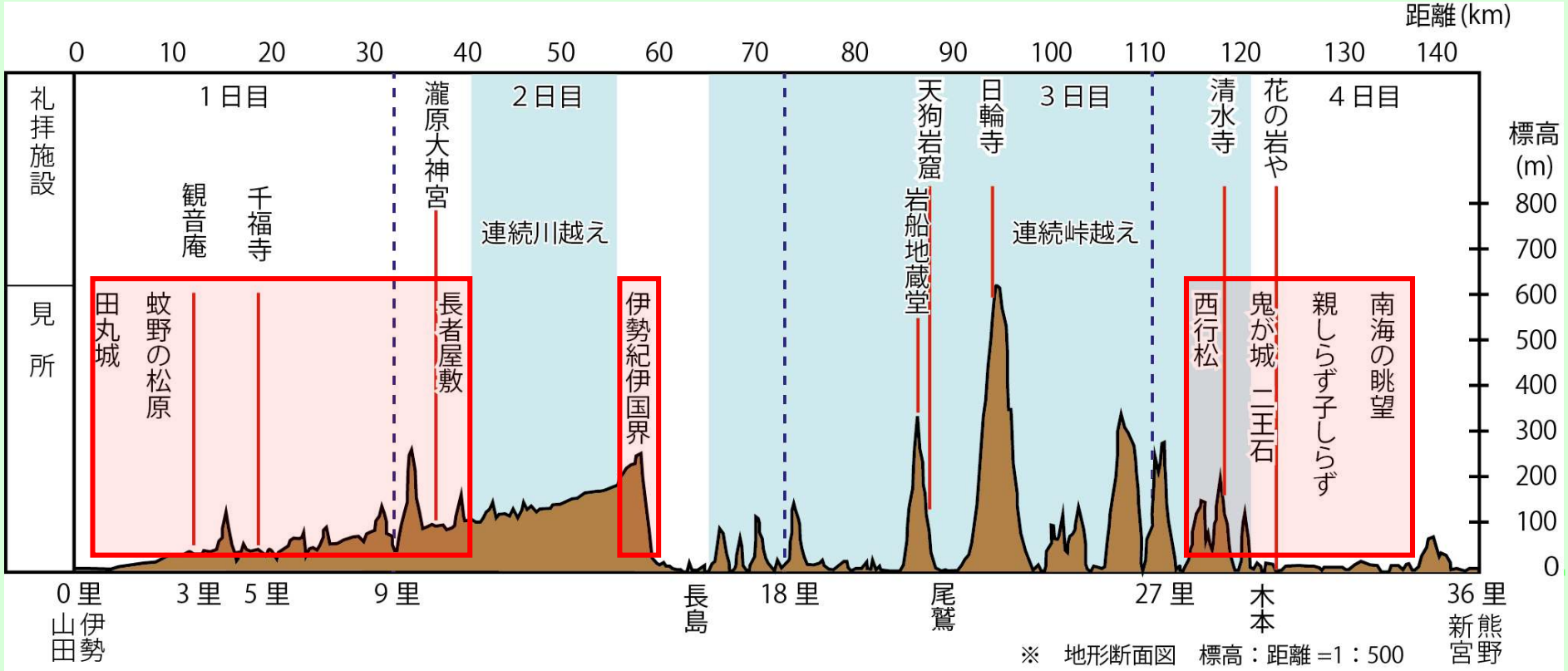
鬼が城

あふま権現二王石

親しらず子しらず

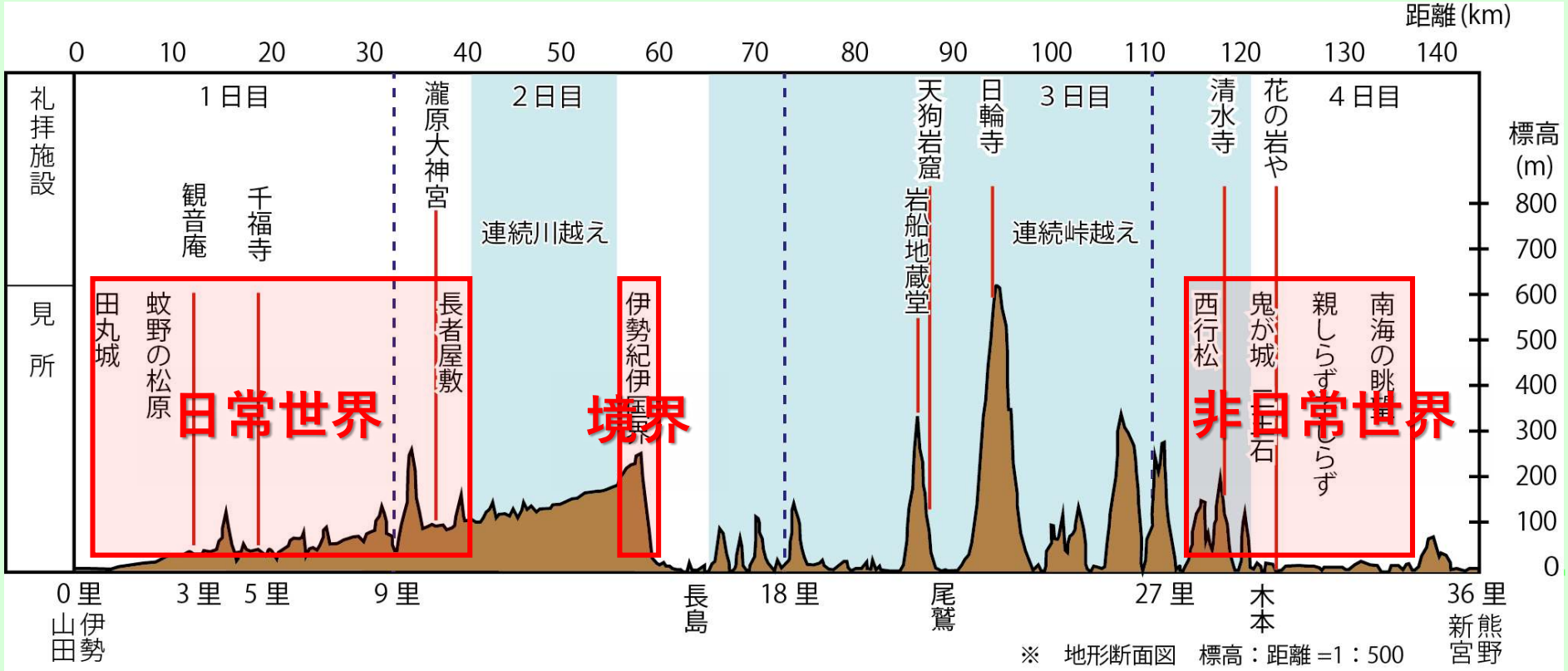
南海の眺望

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素



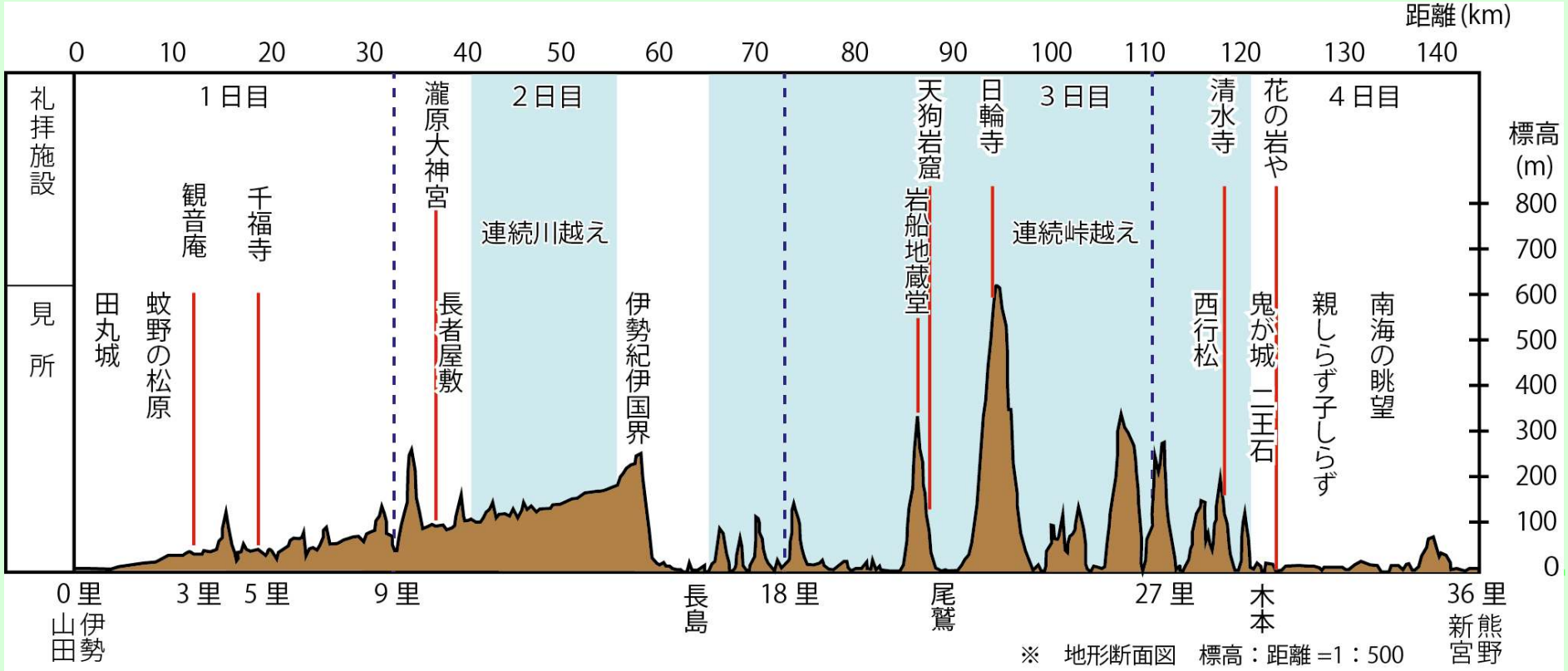

礼拝施設と見所の立地

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素




礼拝施設と見所の立地

# ２．熊野参詣道伊勢路の空間と諸要素

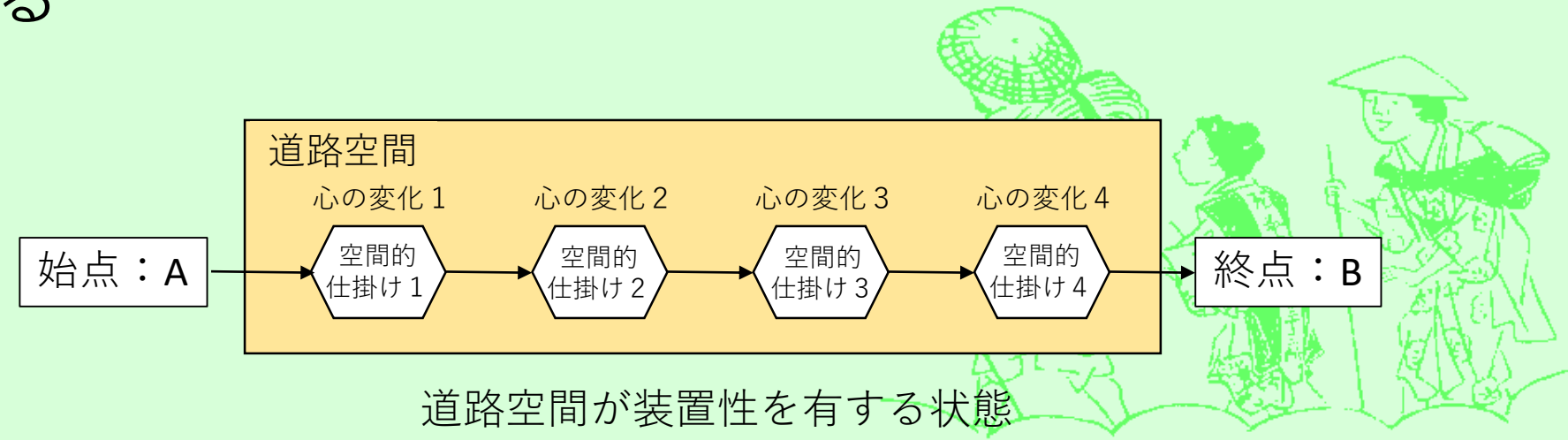



礼拝施設と見所の立地

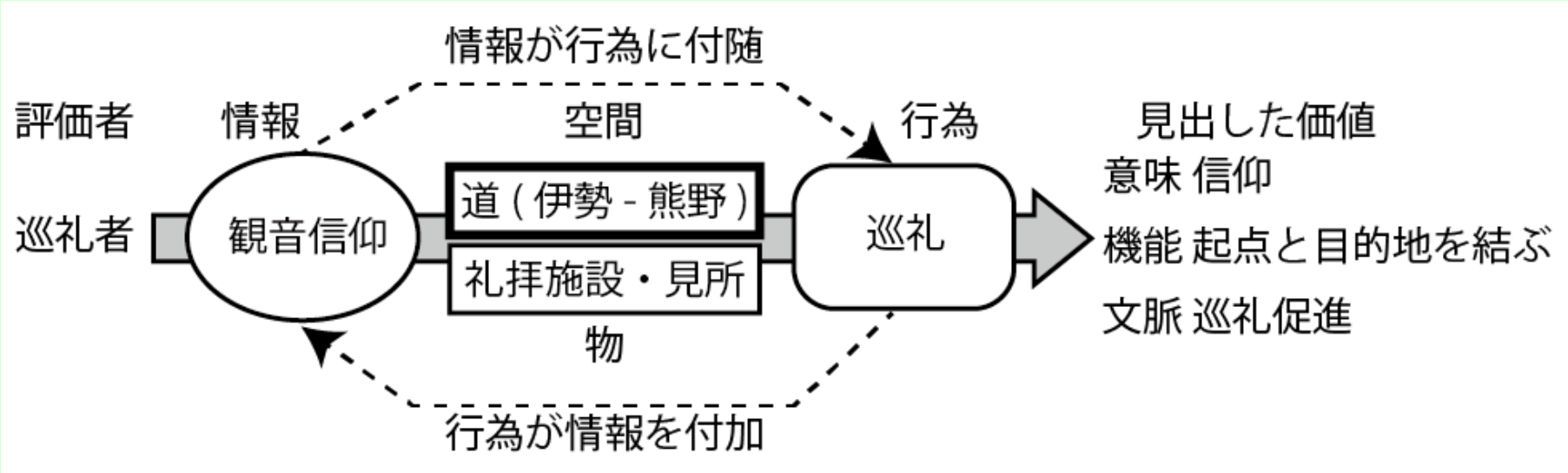
紀伊山地の霊場と参詣道

## 道路空間の装置性の形成

「性格の異なる始点と終点を結び、その間の移動において、気持ちの切り替えや高まりに働きかけ、連続した関連する体験を促す空間的仕掛け」によって道路空間の装置性が形成される




道路空間が装置性を有する状態




図－2　道路空間の装置性と価値の認識モデル

# ３．文化遺産「熊野参詣道伊勢路」

紀伊山地の霊場と参詣道

１　行政（文化財保護部局）の保護

２　行政（地域振興部局）と地域住民の管理運営

３　観光者の観光

⇒　いずれも装置性を考慮に入れていない

⇒　巡礼者が見出していた価値を体験するのは困難

# ５．まとめ

紀伊山地の霊場と参詣道

外宮

観音庵

伊勢紀伊国界

連続峠越

宿の憩い

南海の眺望

熊野新宮

文化遺産として「熊野参詣道伊勢路」を継承していくには、装置性が発揮されるような保護・管理運営・観光利用が望ましい。

# 奄美大島のノロ祭祀にみる神宿る風景の継承

押田佳子
日本大学理工学部まちづくり工学科

# はじめに－ノロ祭祀とは

## ■女性神役ノロ

沖縄県および奄美群島が琉球王朝の支配下にあった15世紀に導入された、中央集権制度に基づき各集落に置かれた祭司。

## ■ノロ祭祀

ノロが係わるまたはノロがいるものとして行われている祭祀

奄美大島において集落単位で実施される年中行事：28件

＜ノロ祭祀の例（農業、漁業に係わるものが多い）＞

ウムケ（オムケ）：海神を迎える祀
ウホリ（オーホリ）：海神を送る祀
アラホバナ：初穂の成熟を祝い豊作を祝う祀
アラセチ：五穀豊穣を祈る祀。
フーウンメ：収穫が終わったことを祝う祀
フユウンメ：イモ類の収穫を祝う祀

大和村今里のオムケの様子

**度重なる禁止・廃止令にも関らず**
**奄美独自の文化として500年以上根付いてきた**

# はじめに－ノロ祭祀が置かれている現状

1970年代以降：高齢化や後継者不足によりノロ不在の集落が増加
ノロ祭祀文化の保全や継承の在り方が問われる
⇒ノロ祭祀空間の継承状況調査に至った（押田ら, 2018）

## 長い歴史に幕／大和村今里のノロ祭祀

2015年10月2日

大和村今里集落で継承されてきたノロ祭祀の「オムケ」（御迎祭）と「オーホリ」（御送祭）が今年の神事を最後に終了し、長い歴史の幕を閉じた。「クヮーノロ」（子ノロ）と呼ばれる女性神職役の高齢化が進み、後継者の確保も困難となったためで、神職役の女性らは今年

＜本日の主題＞

ノロ祭祀空間の継承状況をもとに、
奄美大島の「神宿る集落風景」継承について述べる

# 調査対象地の選定

＜調査対象地＞

近年のノロ祭祀調査に係わった地元有識者へのヒアリングより5地区を選定

**奄美市大熊**（ダイクマ）・**根瀬部**（ネセブ）

**大和村津名久**（ツナグ）・**大棚**（オオダナ）・**名音**（ナオン）

# 調査方法

１. 文献調査：
　昭和期までのノロおよびノロ祭祀について把握

２. ヒアリング調査
　２－１：近年の奄美大島のノロ祭祀調査状況に詳しい有識者
　２－２：ノロ関係者

【ヒアリング項目】
①ノロの継承状況
②集落におけるノロ祭祀および年中行事
③ノロ祭祀空間
④祭祀空間と集落との係わり

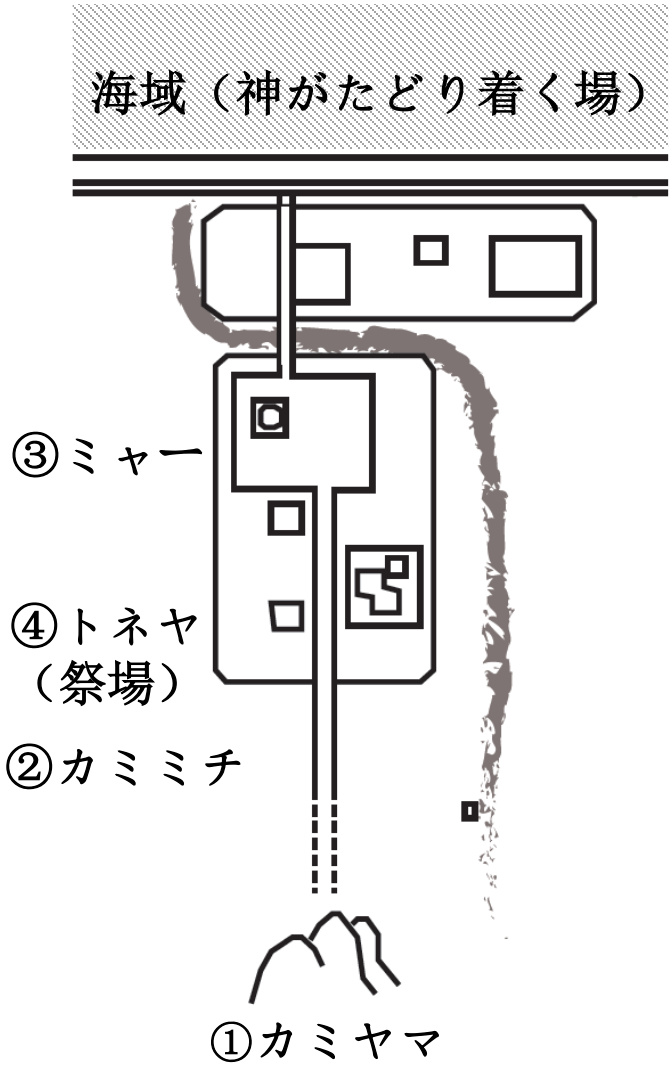
３．現地における祭祀空間の所在確認調査

**各集落におけるノロ祭祀および祭祀空間の継承状況**

# ノロ祭祀空間の継承状況

# ノロ祭祀空間の継承状況－ノロ祭祀空間（聖地）の分類

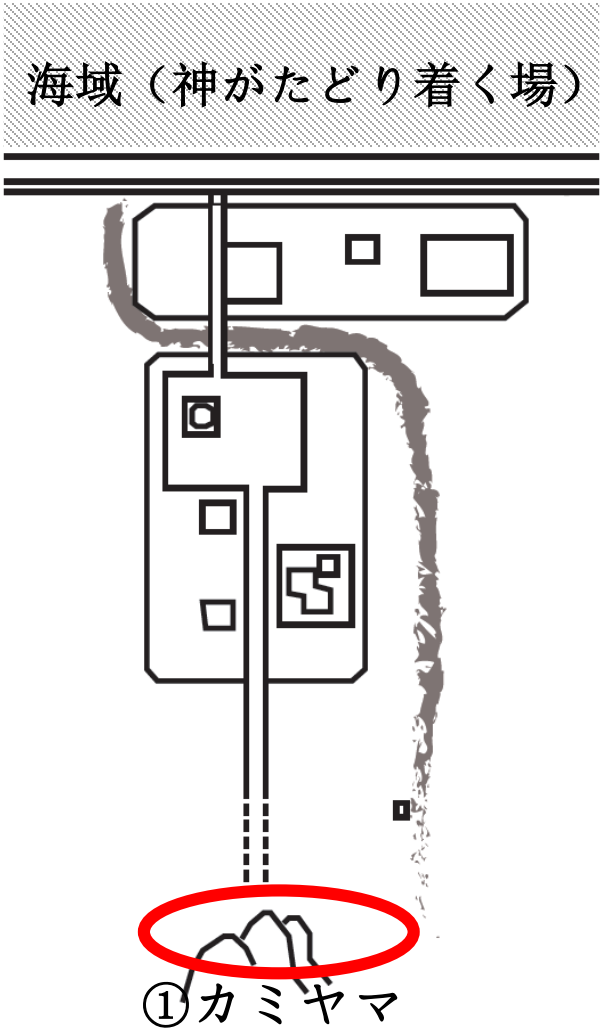
奄美の神は山に下りた後、集落の各祭場を通り、海に達する。
本稿では、祭祀空間を湧上（1974）に基づき以下に４分類した。



# ノロ祭祀空間の継承状況－①カミヤマ

神が去来する最も主要な聖地となる山。集落の後背に立地する。木の伐採や立入等の禁止行為を行うと祟りがあるとされて

⇒津名久・大棚・名音・根瀬部の４集落で継承

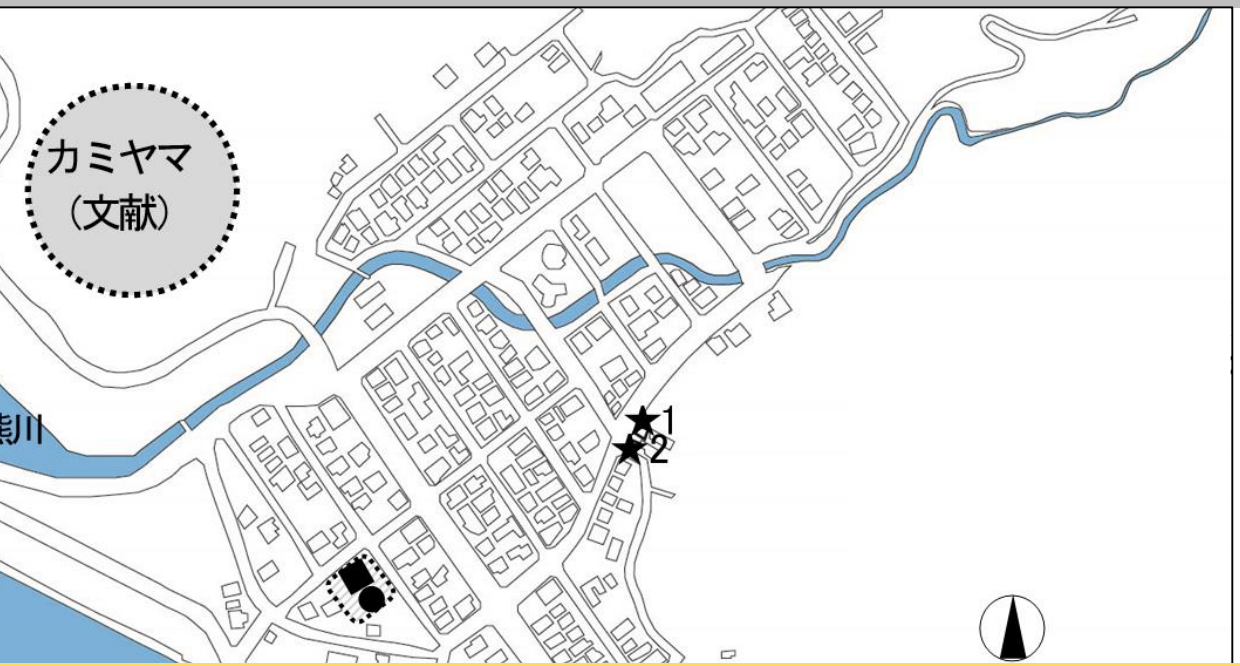


＜祭祀空間＞

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| トネヤ | ★ | 公民館 | ■ | 井戸 | 井 |
| カミヤマ | | 土俵 | ● | | |
| ミャー | | カミミチ | ------ | | |

# ノロ祭祀空間の継承状況－①カミヤマ

## 大熊集落：1990年代までノロが存続した




1970年代の記録より
物理的継承を確認

ノロ関係者において
「（カミヤマについて）
聞いたことが無い」
「どこにあるか
わからない」

**精神的継承が為されていないことを確認**

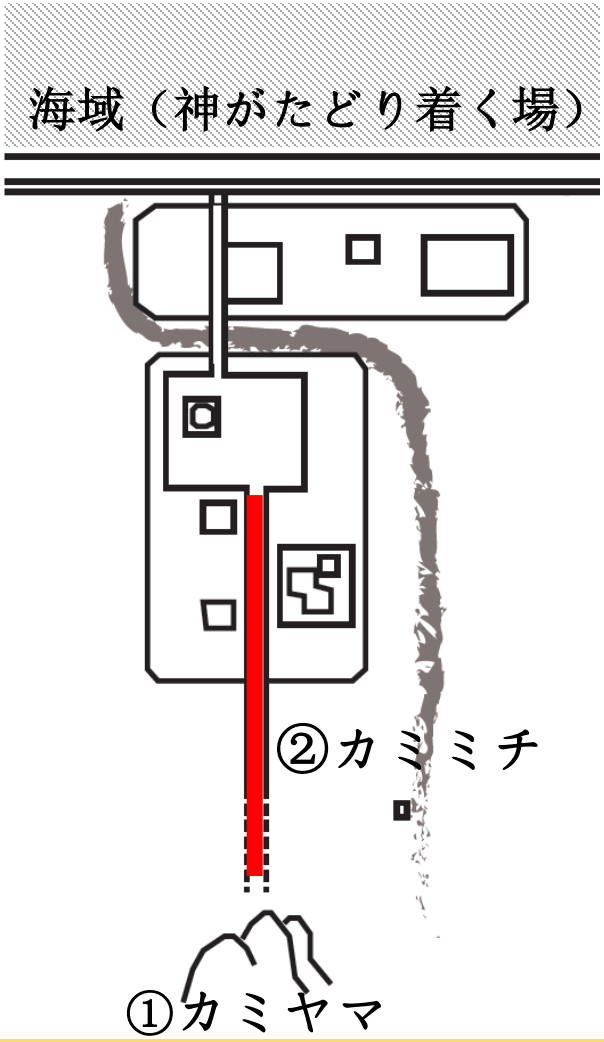
○「祟り」などの云われより、普段より住民との係わりが少ない
○度重なる集落整備伴う埋立や河川改修により、祭祀空間の
本来的意味が継承されなかった

**「山」の特性上、物理的存続が望めるものの
ノロ祭祀の衰退に伴い精神的継承が途絶える恐れ**

# ノロ祭祀空間の継承状況－②カミミチ

カミヤマに来臨した神が山から集落に降臨する際に通る道。

⇒大棚・名音の２集落で継承、津名久で祭祀用に一部継承・活用




津名久集落におけるカミミチ（祭祀用に一部継承）

＜祭祀空間＞

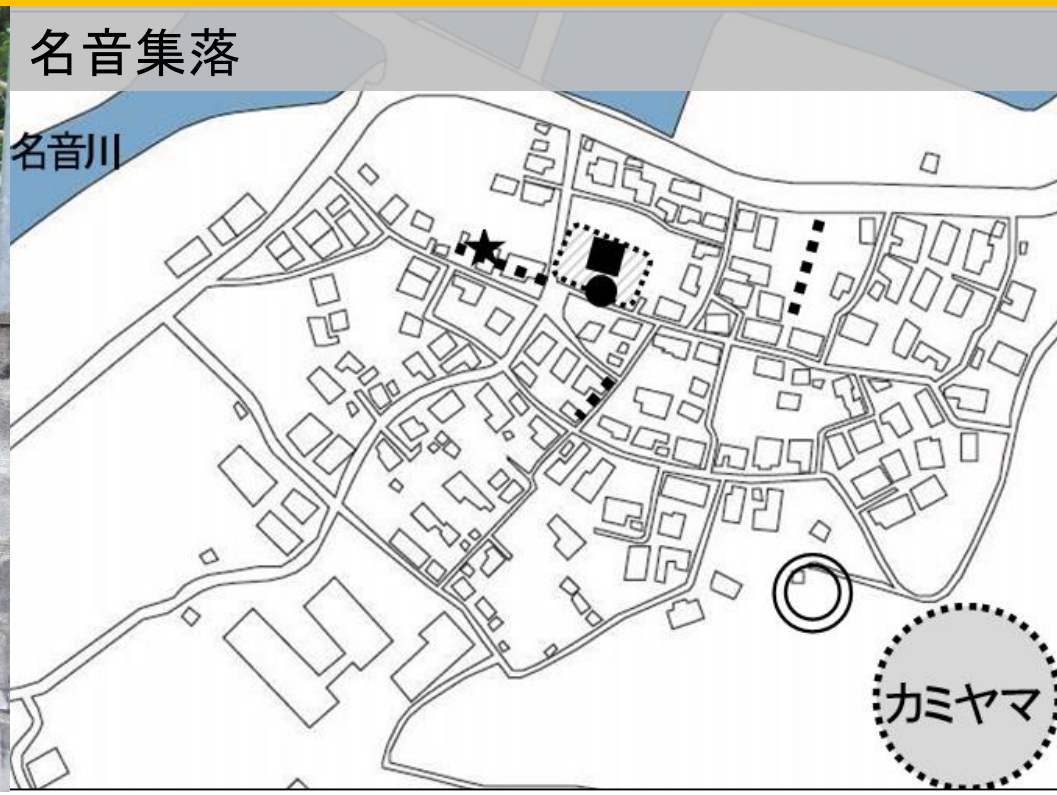
トネヤ ★　公民館 ■　井戸　井

カミヤマ　土俵 ●

ミャー　カミミチ ------

物理的継承・精神的継承ともに危機的な状況

# ノロ祭祀空間の継承状況－②カミミチ




＜カミミチ衰退の要因＞

〇カミミチは必ずしも人間が利用する道ではない

〇集落の宅地の「空隙」など、空間の意味を捉える難しさ

**ノロ祭祀の衰退に伴い、**
**消失の可能性が高い祭祀空間**

# ノロ祭祀空間の継承状況－③ミャー

集落の中心にある広場であり、土俵が設置される。
公民館を併設することが多い。

⇒大熊、津名久、名音、根瀬部の４集落で継承

大熊のミャー（公民館、土俵を併設）

同>

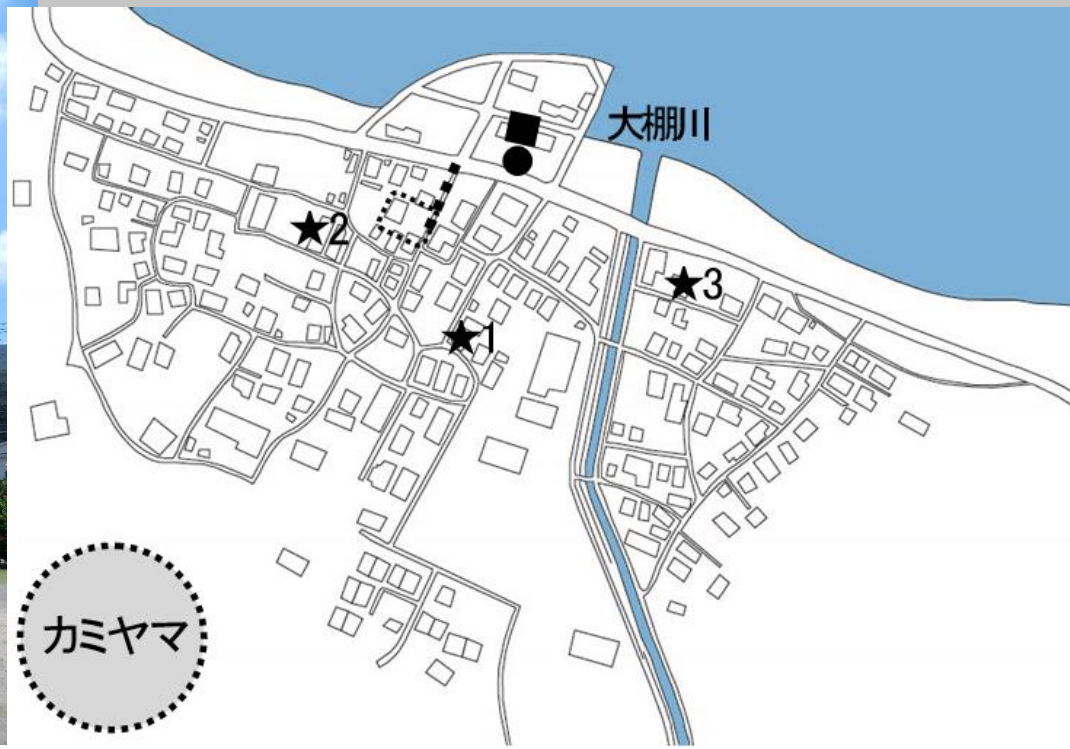
★　公民館　■

土俵　●

「豊年祭」「アラセチ」など大規模な祭祀で活用

# ノロ祭祀空間の継承状況－③ミャー

大棚集落



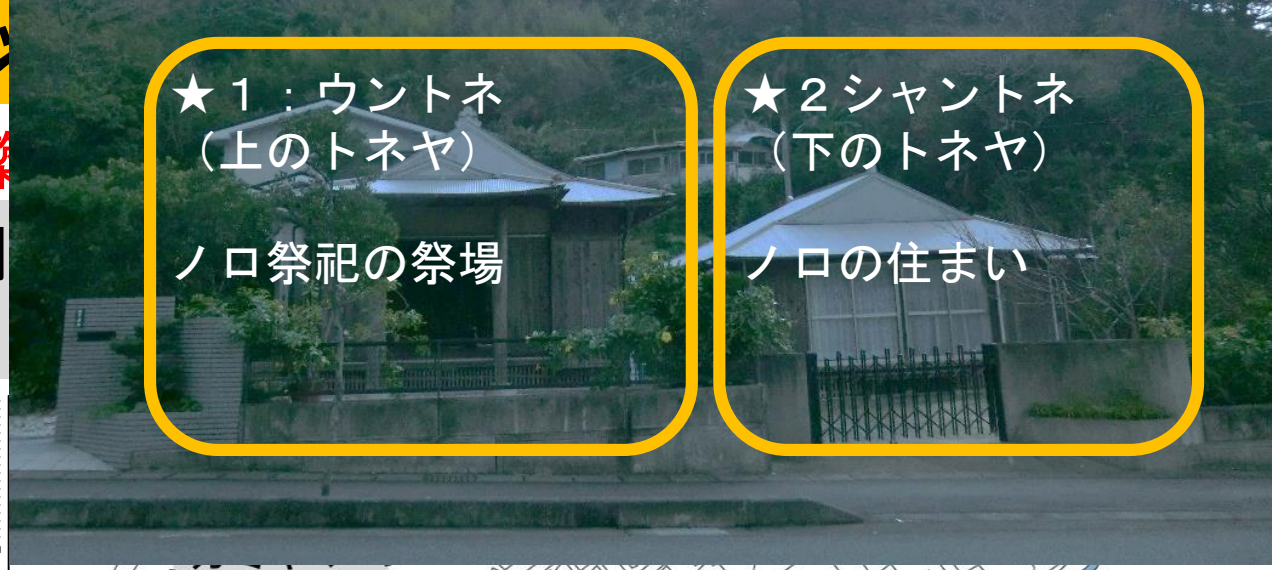

〇近年公民館を新築した際に「ミャー」であることを排除。
信仰的空間から公共空間への転換を図る

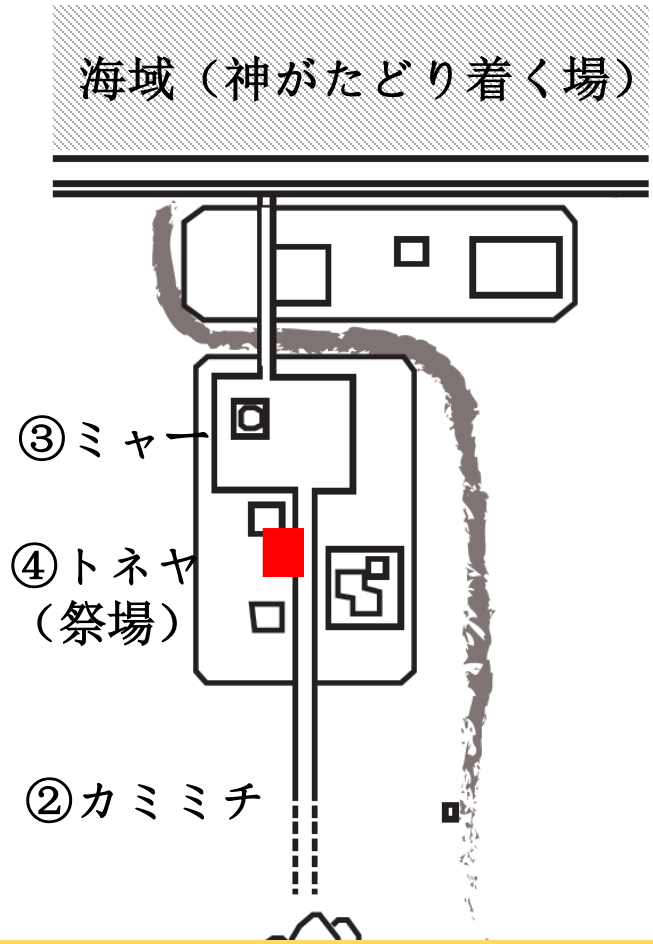
**集落の拠り所として物理的・精神的継承がなされやすい**
**ノロ祭祀の衰退に伴い祭祀空間⇒公共空間へ転換する可能性**

# ノロ祭祀空間の継承

一般民家と同様の建築

⇒大熊、津名久、大棚
80年前にノロ不在と



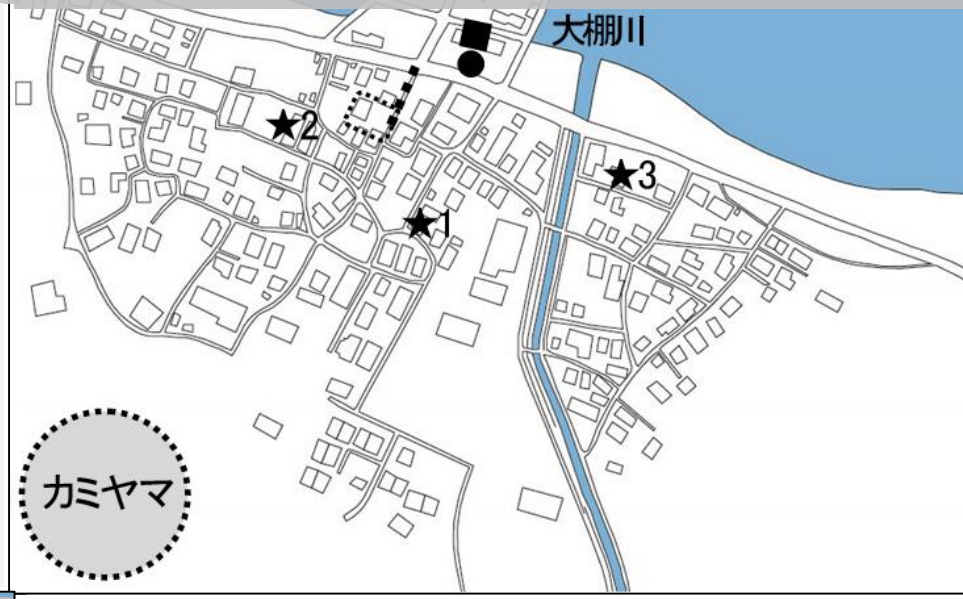
ノロ不在後の年数により継承が左右される祭祀空間

# ノロ祭祀空間の継承状況－④トネヤ

## 津名久集落

元ノロの身内が寄付した土地に
集落が新たに建設

## 大棚集落



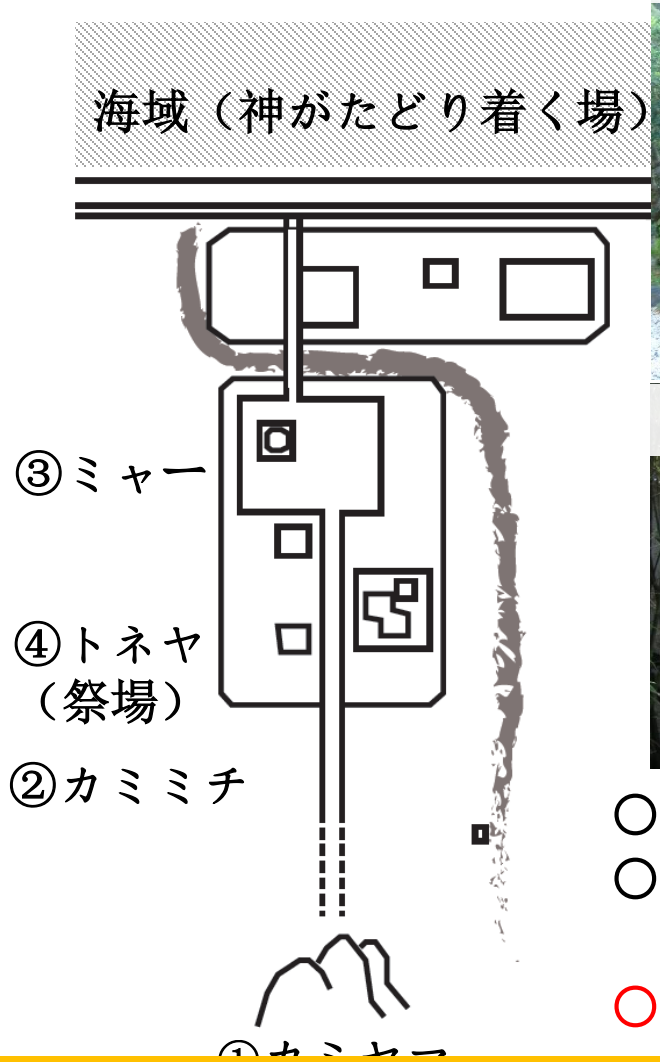

## 名音集落

世代交代に伴い取り壊しを
検討中

**トネヤは原則個人資産であるため、時間の経過とともに
継承が途絶える可能性を持つ祭祀空間**

# ノロ祭祀にみる「神宿る」集落風景の継承

# ノロ祭祀にみる「神宿る」集落風景の継承




トネヤ

ミャーと土俵、公民館

カミミチ

カミヤマ

〇祭祀空間は個別に認識、物理的継承が為される
〇一部集落におけるカミミチ・カミヤマの
精神的継承が途絶
〇「神」を介した山から海への繋がりが消失

## 中世より継承されてきた
## 「神宿る」集落風景が消失寸前

# ノロ祭祀にみる「神宿る」集落風景の継承－おわりに－

## ○近代以降の生活スタイルや宗教観の変化（物理的継承）

ノロ祭祀の消失は不可避、祭祀・祭祀空間をそのまま残すことは困難

Ans. 大規模な祭祀を集落を挙げての行事に転じ、
残された祭祀空間を活用しながら保全
⇒*ノロ祭祀自体を公共物として継承*

## ○ノロ祭祀空間および集落における「信仰」の欠落（精神的継承）

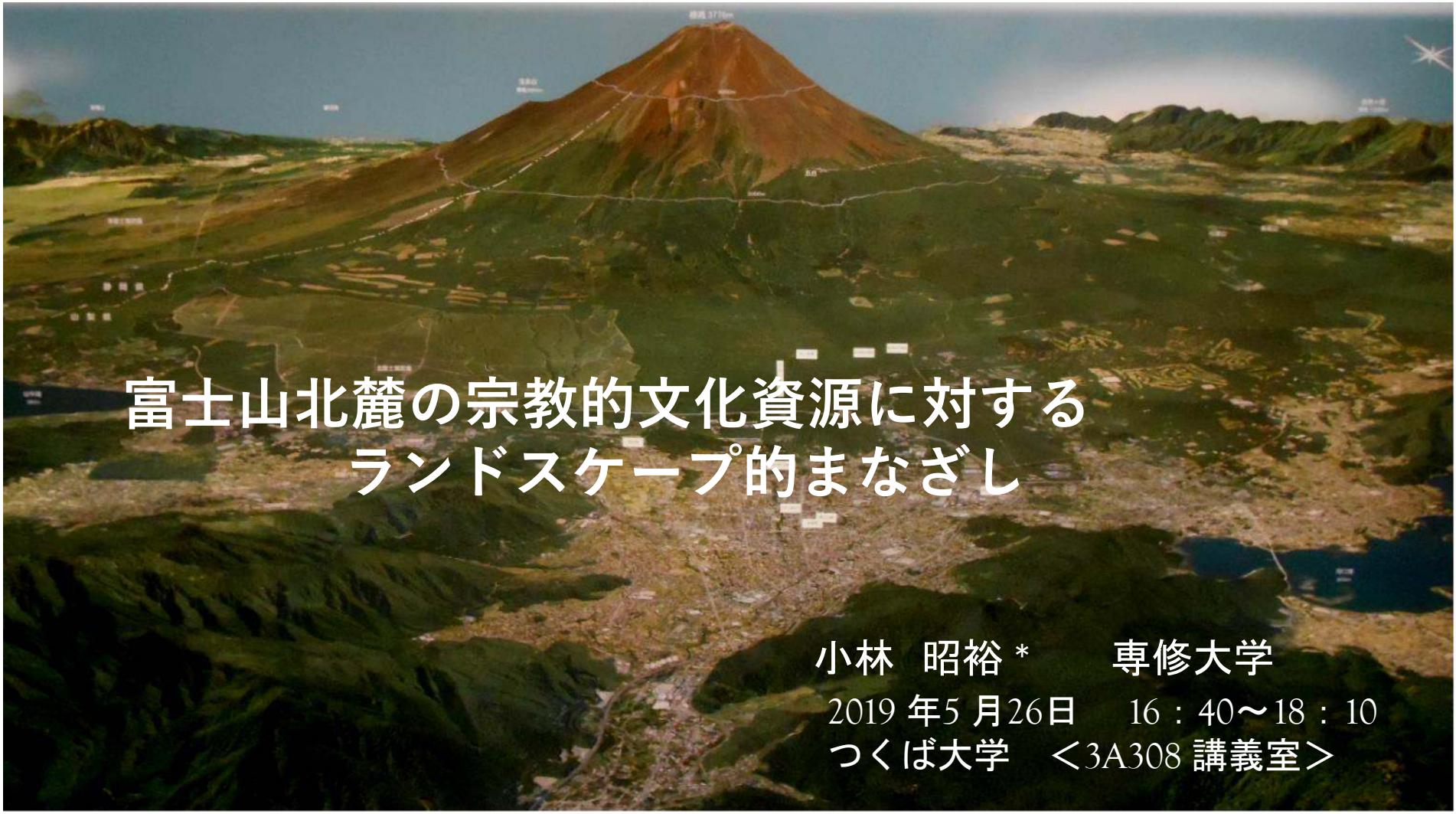
カミヤマの云われの背景にある「自然への畏怖」「自然への感謝」が欠落、
集落を成立させてきた風景や自然の秩序さえも損なう恐れがある

Ans. 集落整備や都市開発実施の際に信仰の名残を調査、記録
⇒*地域にノロ祭祀の本来的意味を保存*

**形を変えながらも伝統的な集落風景の継承の可能性が見出せるのでは**

# Fin.

造園学会ミニフォーラム「「生活と風景　風景・文化・信仰のダイアグラム」



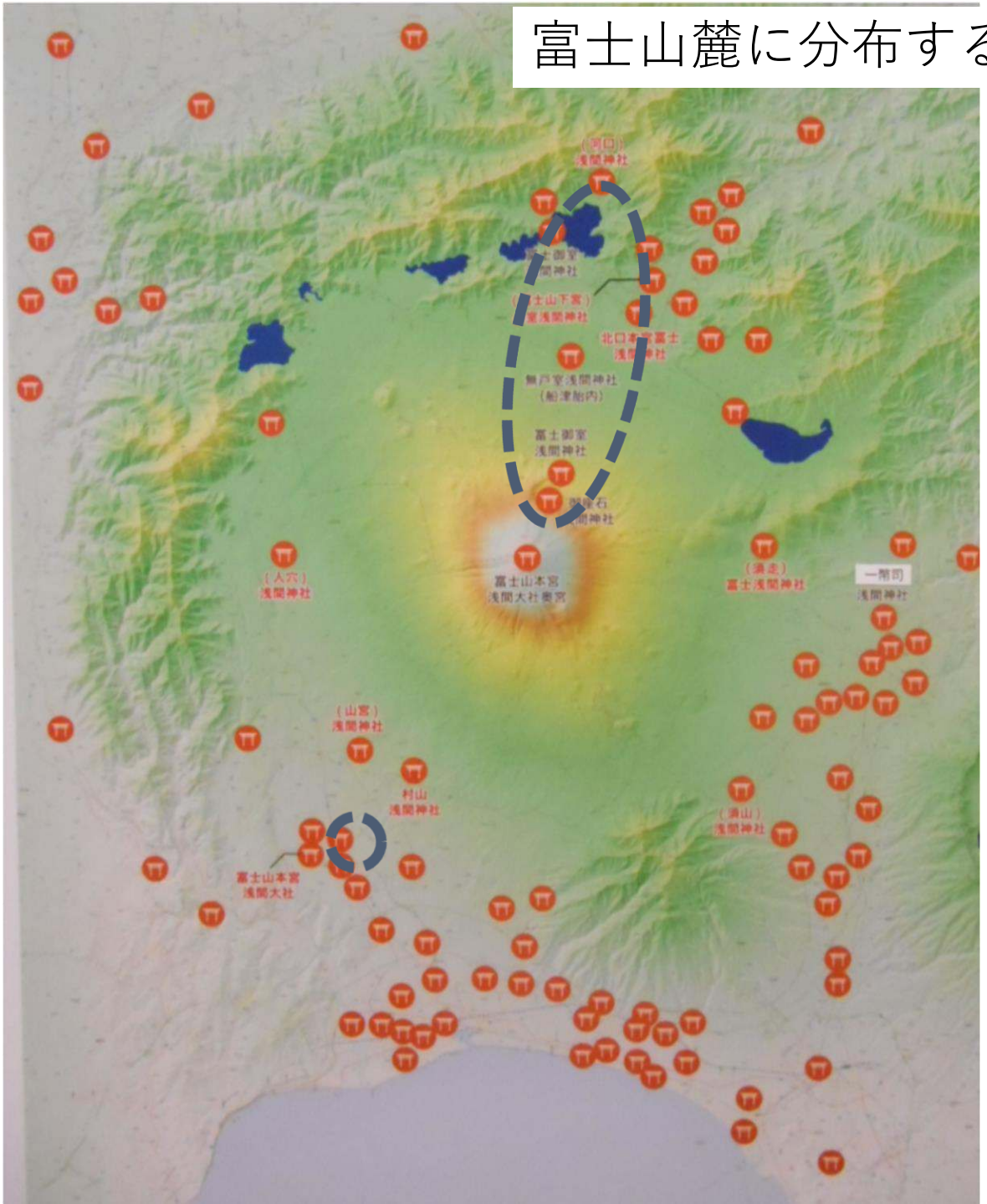
# 富士山北麓の宗教的文化資源に対する ランドスケープ的まなざし

小林　昭裕 *　　専修大学

2019 年5 月26日　16：40〜18：10

つくば大学　＜3A308 講義室＞

# 富士山麓に分布する**世界文化遺産**




本論の対象

## □ 議論の観点

**宗教的文化資源に対して　社会が示したまなざし—**

**Sense**

✓ **場の特性への関心・憂慮**

働きかけ（解釈を付与する，物理的に操作する等）
構造や意味の変遷*

**Context**

✓ **宗教的聖性の創造**

地形、微地形，水文特性へのまなざし
場所や施設に対する意味の生成*

**Medium**

✓ **解釈の共有化の過程**

空間構成要素と解釈の共有方法
視認と行動を通じた縁起

# 富士山北麓の宗教的文化資源に対するランドスケープ的まなざし

## 全体的俯瞰

**Sense**
- ✓ 場の特性への関心・憂慮

**Context**
- ✓ 宗教的聖性の創造

**Medium**
- ✓ 解釈の共有化の過程

**神奈備**
- 畏怖
- 凸地
- 遥拝

**鎮火**
- 溶岩末端凸
- 湧水、流水
- 噴火

**神仏習合　修験**
- 噴火休止
- 山頂
- 登拝

**御師町、富士講**
- 御師町
- 登拝路
- 富士講
- 富嶽三十六景

**近代化**
- 非宗教化
- アルピニズム
- 交通手段

古代　奈良・平安　鎌倉・室町　江戸　明治　昭和・平成

# 古代　北麓地域社会

## 場の特性への関心・憂慮の履歴

火山*

災難わざわい ⟷ 利益ごりやく

浅間信仰

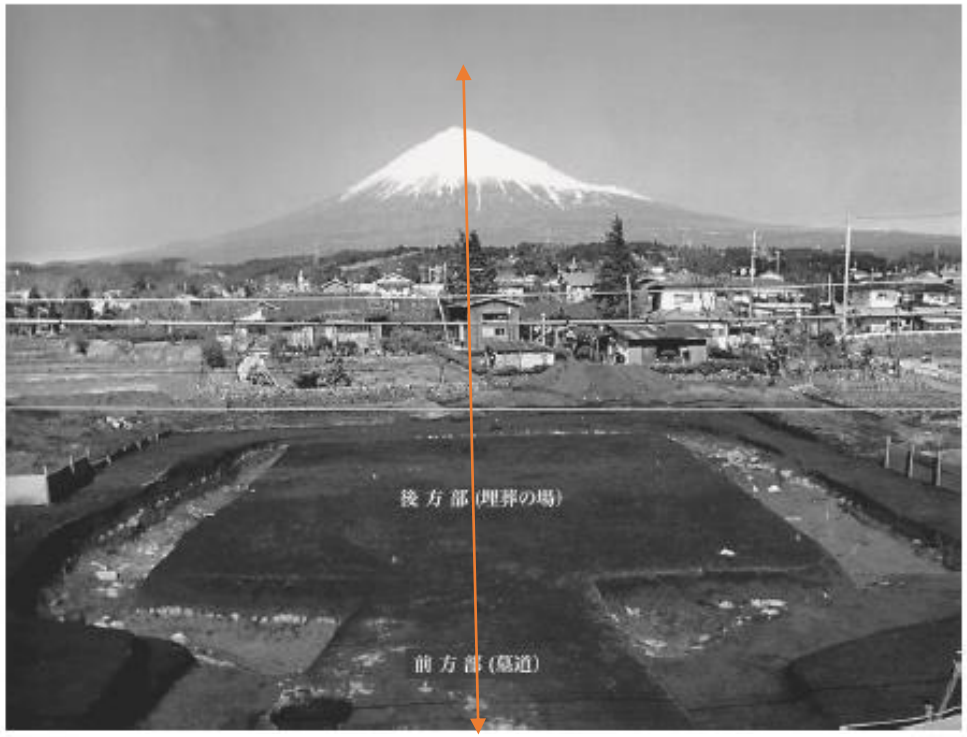
凸地　　遥拝

# 古代

## 火山

古墳の軸線配置

図 1　吉野ヶ里遺跡北墳丘墓からみた雲仙普賢岳




静岡県丸ケ谷戸遺跡古墳と富士山

吉野ヶ里遺跡と雲仙普賢岳

北條芳隆　(2017)　古墳・火山・太陽　　第4紀研究　56(3)　97-110

# 奈良・平安

国司

## 解釈の共有化の過程

社殿の勧請

土着信仰
＋
鎮火信仰

諏訪明神

# 奈良・平安

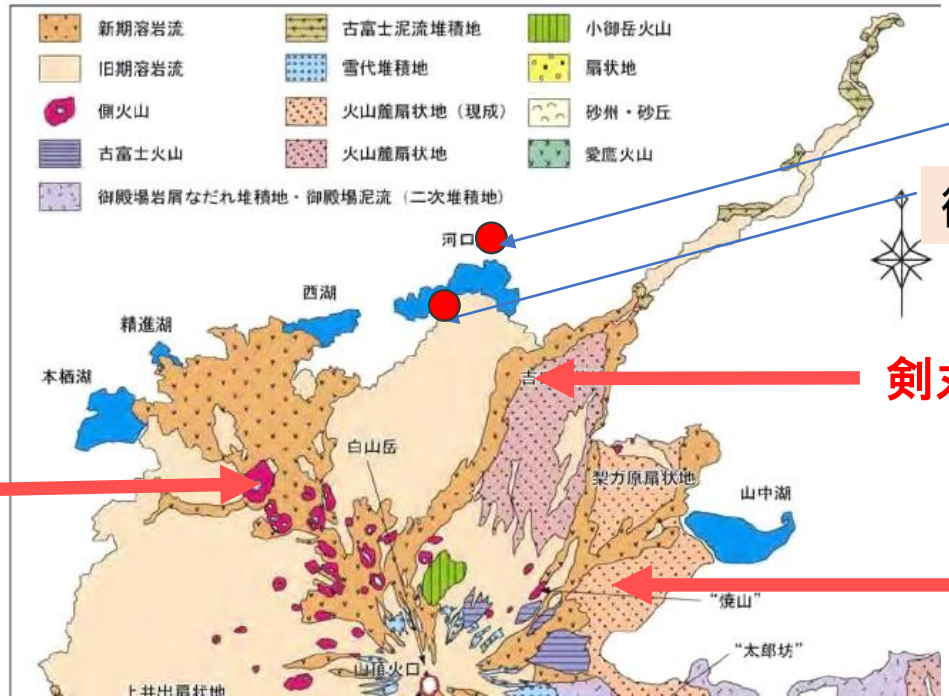
朝廷　国司

宗教的聖性の創造

鎮火*　　浅間神社

溶岩流末端の凸地・　水:聖地化 遥拝

富士宮浅間神社




河口浅間神社

御室浅間神社

剣丸尾溶岩流(937)

貞観噴火(864)

檜丸尾第二溶岩流
(802～825)

# 奈良・平安

**朝廷　密教** 場の特性への関心・憂慮の履歴 ➡各地の高嶺を修験場

噴火休止

古来の山岳信仰と平安密教との習合➡修験 ➡ 富士修験

**朝廷　密教**

解釈の共有化の過程　**本地垂迹説**

富士浅間大菩薩，降臨

**山頂の意味が変化**

**修験者の**
**意識と行動が変化**

# 鎌倉・室町

**幕府　　神社**

**宗教的聖性の創造**

**鎌倉往還成立　社殿の移動**

御坂峠　一の鳥居

**富士　領域の意識づけ**

河口浅間神社

街道通過者に
信仰の場を明示

**解釈の共有化の過程**

# 鎌倉・室町

**修験者　　山麓農民**

## 場の特性への関心・憂慮の履歴

## 解釈の共有化の過程

**修験者：豊作祈願、農民との師檀関係**
**→里に宿坊：**

**一般人への富士山夏山　門戸開放：**

**受け入れ体制の萌芽と御師の誕生：**

浅間神社を核
祈祷や峰入修行を行う修験者が
富士道者を指導し，宿泊や世話

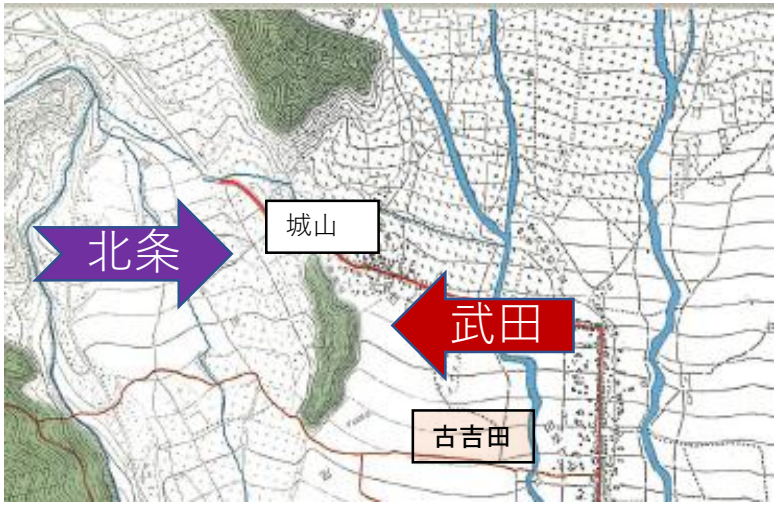
「絹本富士曼荼羅図」の一部

# 鎌倉・室町

**御師　封建領主**

## 場の特性への関心・憂慮の履歴

**古吉田**　**戦災**

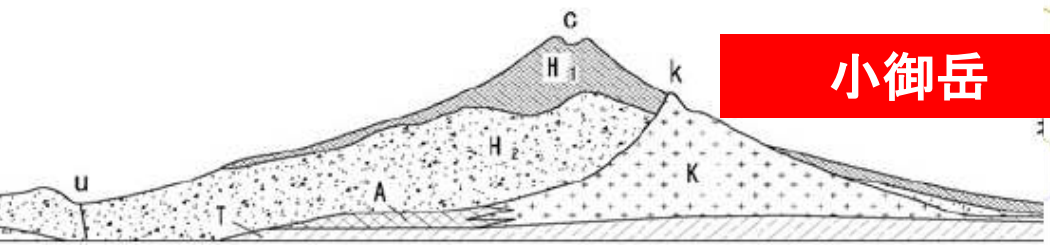


# 鎌倉・室町

御師　封建領主

宗教的聖性の創造

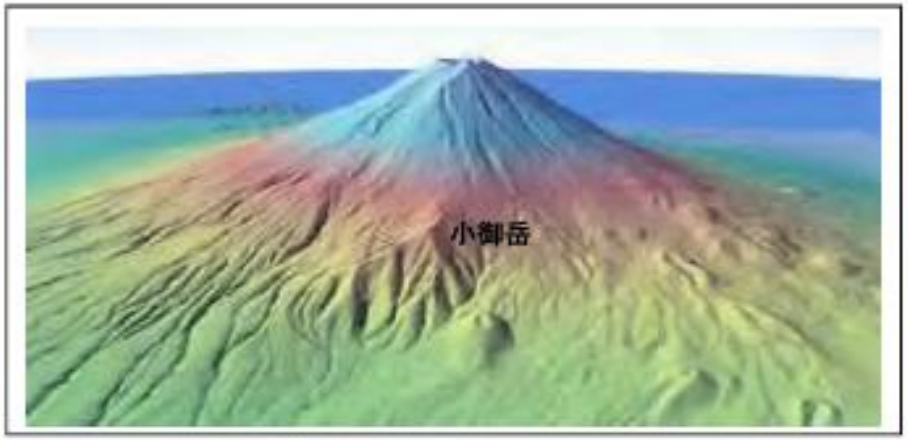
解釈の共有化の過程




小御岳

図１　富士山の模式的な断面図（津屋,1940 を一部修正）

c 富士山頂、H1 新富士火山、H2 古富士火山、K 小御岳火山、k 小御岳、A 愛鷹火山の一部
T 第四紀層　T 新第三紀層　f 富士川　u 潤井川




北から見た富士山
富士山の正面山腹に見える張り出した
地形は古い火山である小御岳

www.gsi.go.jp/common/000109839.pdf

# 鎌倉・室町

**御師　封建領主**

## 場の特性への関心・憂慮の履歴

## 宗教的聖性の創造

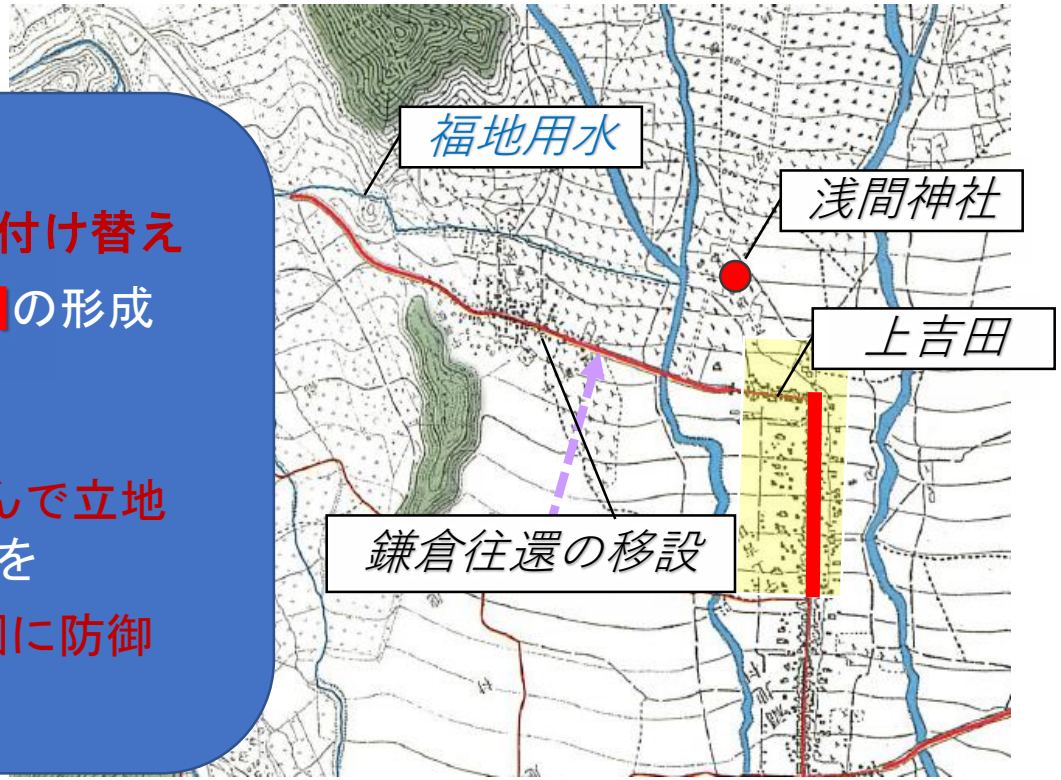
## 解釈の共有化の過程

**元亀三（1572）年に現在地に集落移転できる前提条件**

*生活飲用水の確保*　　*桂川から取水した福地用水が延長*[17]。

・

- ✓ **鎌倉往還**を集落移転に合わせ**付け替え**
- ✓ **小御岳を視軸　南北軸**の形成
- ✓ 集落全体を
  **間堀川と神田堀川**に挟んで立地
- ✓ 屋敷割として中宿と下宿の境を
  **「塀・土居囲」**で囲み，堅固に防御

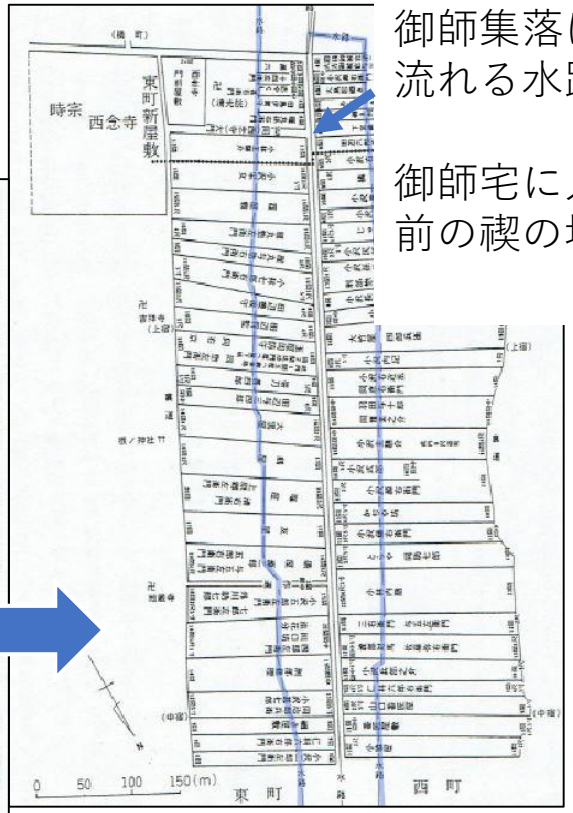


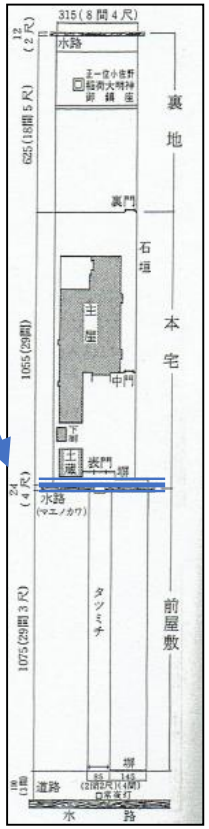
# 鎌倉・室町➡江戸

**御師**　**宗教的聖性の創造**

**富士信仰　水の聖性化**

図　上吉田の町並み
（「富士山神宮麓八海略絵図」より）



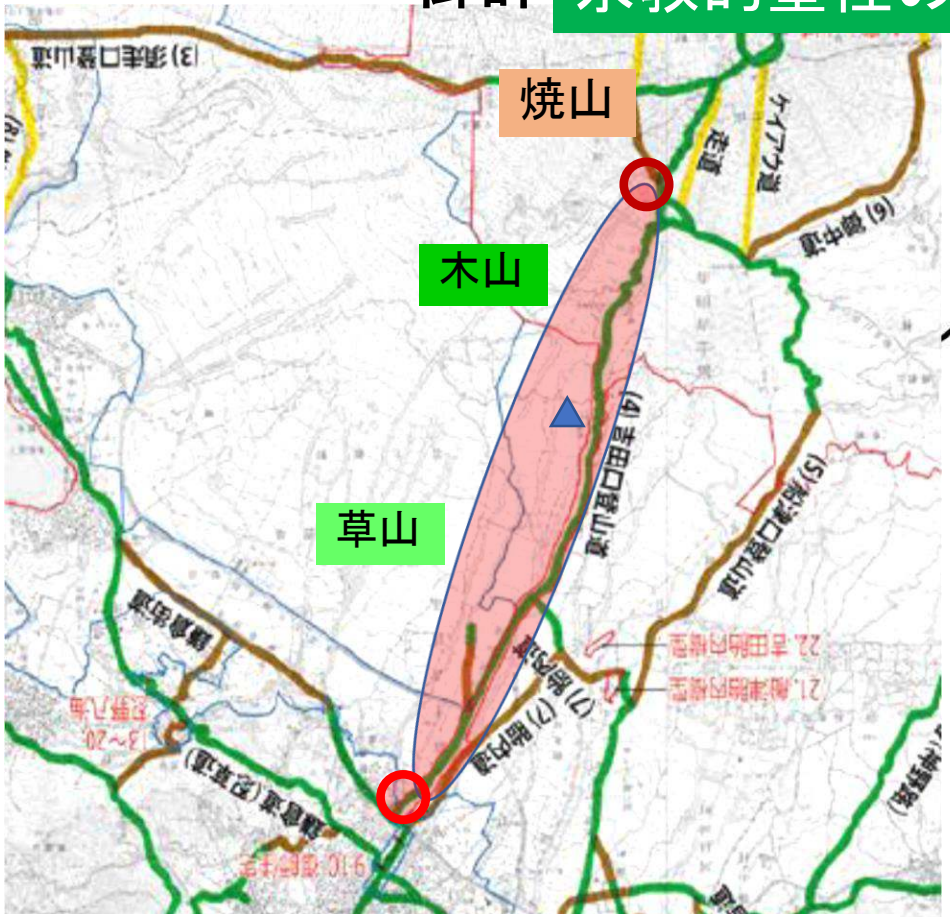



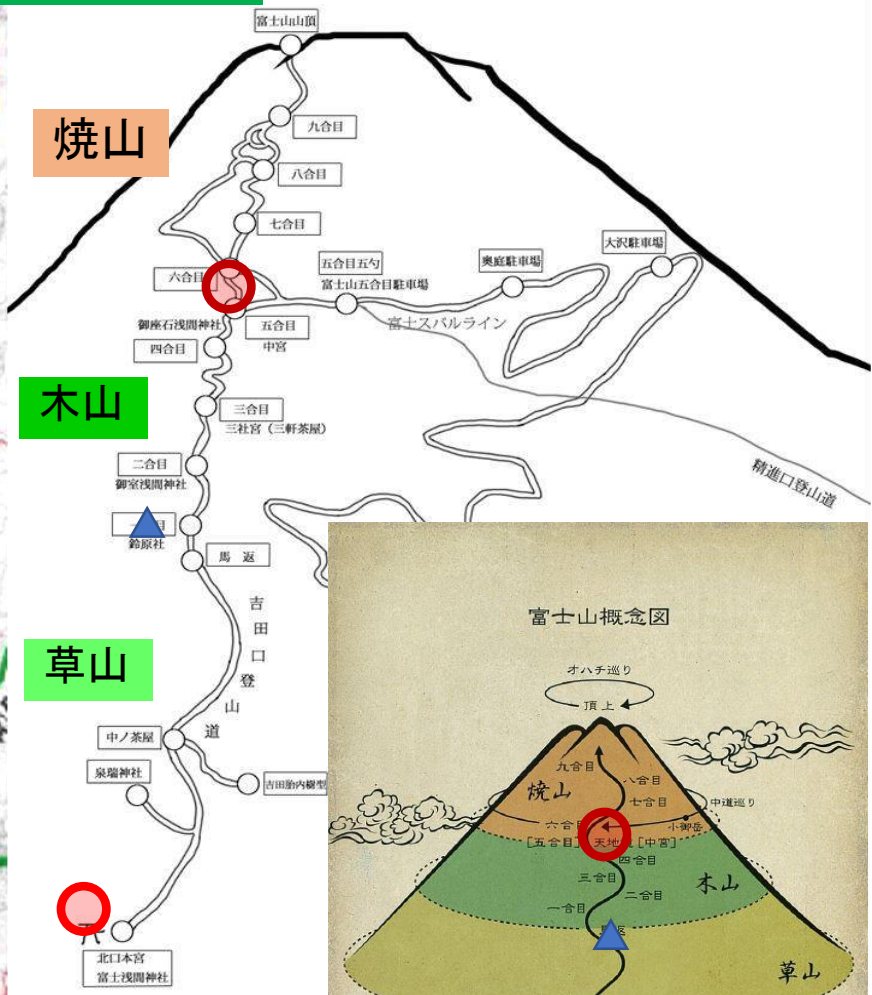

図—元亀3年の町割・屋敷割復元図
（「富士吉田市史」より）

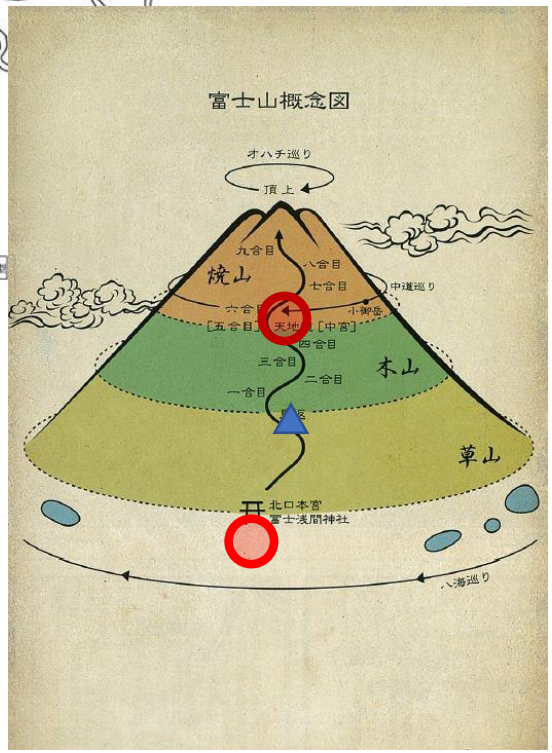
福地用水を浅間神社境内を横断させ、禊の場を設け、御師住宅へ導水。ヤーナ川

# 江戸

## 御師 宗教的聖性の創造



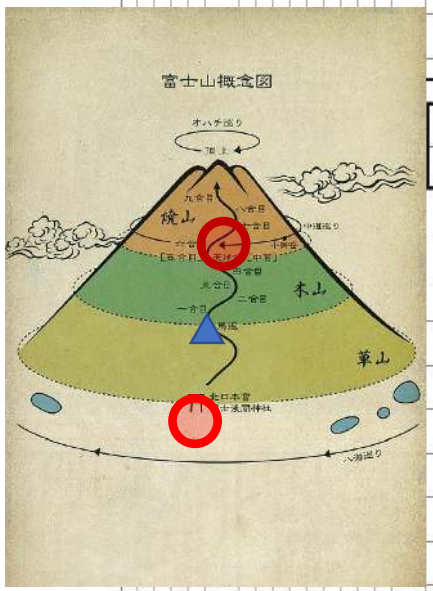




登拝路の装置化

# 江戸

## 御師

## 宗教的聖性の創造




草山

寺社・山小屋は少なく、木山以上に登山者が少ない。
自然的で散策・行楽を楽しめる空間

木山

寺社・山小屋が多い。
信仰色が強く神聖な空間

**植生、傾斜の境目：**
**宗教施設の立地**
**草山/木山/焼山の区分**

草山

木山

馬返しまでは
車道・遊歩道
２つ道がある

**登拝路の装置化**

フジザクラ
レンゲツツジ
ススキ
アカマツ

0(m) 500 1000 1500 2000 2500 3000 3500 4000 4500 5000 5500 6000 6500 7000 7500 8000 8500 9000 9500

0(m) 500 1000 1500 2000

一合目 二 三 四 五

登山門 大塚丘 中ノ茶屋 大石茶屋 馬返し 富士禊所 鈴原社 レッキス小屋 御室浅間神社 中食堂 大黒茶屋 御座石浅間神社 富士守稲荷 佐藤小屋

山口 善貴　（2016）富士山・吉田口登山道五合目までにおける自然・文化的資源の現状と観光価値：東京農業大卒業論文

# 江戸

御師　　解釈の共有化の過程

## 「富士塚」

「江戸八百八講、講中八万人」

登拝できない富士講信者への代替措置
**特別な意味を持つ山「富士塚」**

**遠隔地　しかし、親しみ感**
**江戸市民が「富士山」を想起する媒体**

# 江戸

**浮世絵師**

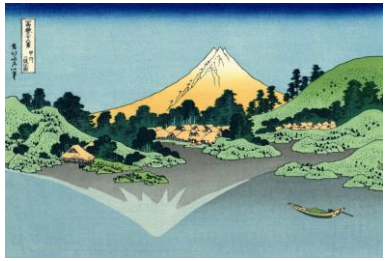
**解釈の共有化の過程**

どの方角から見ても**円錐➡　遠望**
**富士山＝円錐形**

## 富嶽三十六景

版画：新しい景色の発見と流布

甲州：視点場の発見と名所化



甲州三坂水面(こうしゅうみさかすいめん)

# 明治

近代的視点を求めた社会

場の特性への関心・憂慮の忘却

宗教的聖性の希薄化

解釈の共有化の変質

**信仰登山**から**観光登山**へ質的に変化

**アルピニズムの浸透**

**徒歩・馬**から**電車**へアクセスが変化➡大量登山

# 昭和・平成

利便性を求めた戦後社会

場の特性への関心・憂慮の忘却

宗教的聖性の希薄化

解釈の共有化の変質

**昭和39年、富士スバルラインが開通**

**５合目までの登拝道は衰退**

**登拝行動の衰退**

# 富士山北麓の宗教的文化資源に対するランドスケープ的まなざし

## 全体的俯瞰

**Sense**
- ✓ 場の特性への関心・憂慮

**Context**
- ✓ 宗教的聖性の創造

**Medium**
- ✓ 解釈の共有化の過程

**神奈備**
- 畏怖
- 凸地
- 遥拝

**鎮火**
- 溶岩末端凸
- 湧水、流水
- 噴火

**神仏習合　修験**
- 噴火休止
- 山頂
- 登拝

**御師町、富士講**
- 御師町
- 登拝路
- 富士講
- 富嶽三十六景

**近代化**
- 非宗教化
- アルピニズム
- 交通手段

古代　奈良・平安　鎌倉・室町　江戸　明治　昭和・平成

**制御不能**
**フェーズの転換**

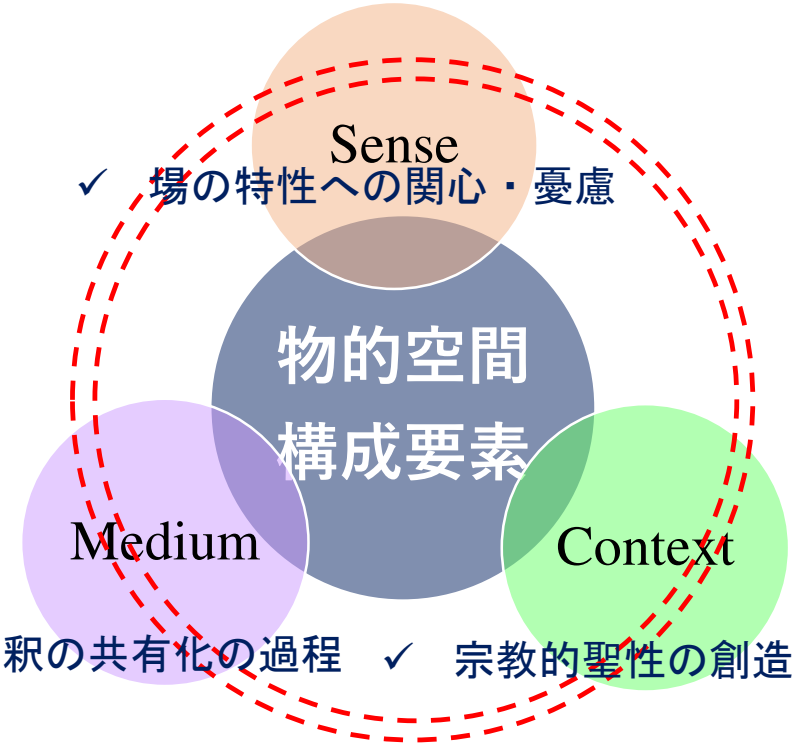
**物的環境**

**文化的に定義された関係：**

**客観的操作**
**主観的意味作用**

（人間は環境に手を入れる）
（人間は環境を解釈する）

**非物的環境**




自然の営みは攪乱と再生、人間の営みは破壊と創造の繰り返し
攪乱と再生は生物多様性を高め、破壊と創造は文化的多様性を高めた

**富士山北麓の宗教的文化資源に対するランドスケープ的まなざし**

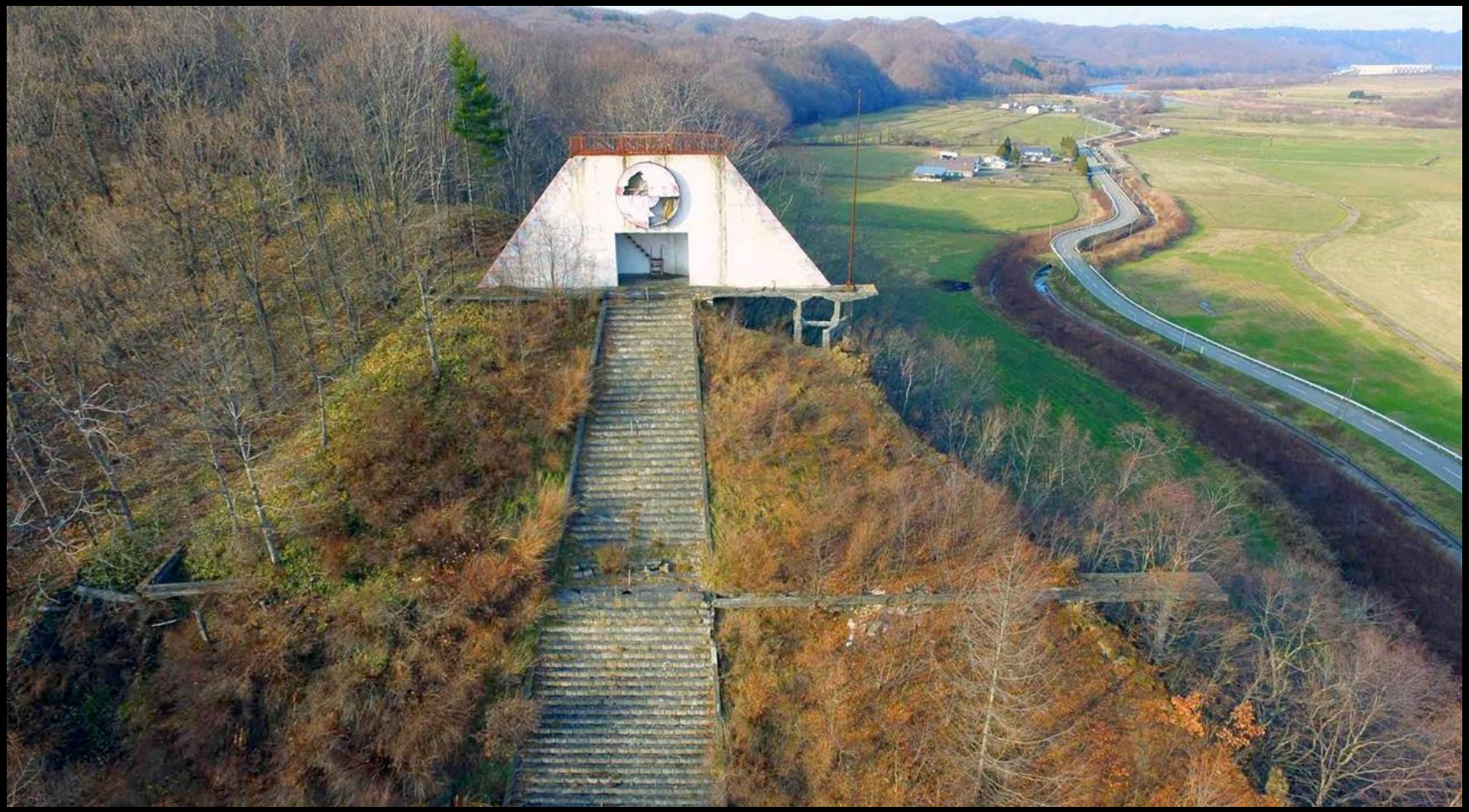
輿水肇　2013　防災・減災への対応　EIS　42（1）8-12
オギュスタン・ベルク　風土の日本、1992　ちくま学芸文庫

ご清聴ありがとうございました

# 平取町における
# アイヌの聖地と風景変容

北海道大学
観光学高等研究センター
上田　裕文

# 「UFO基地」は文化的景観？

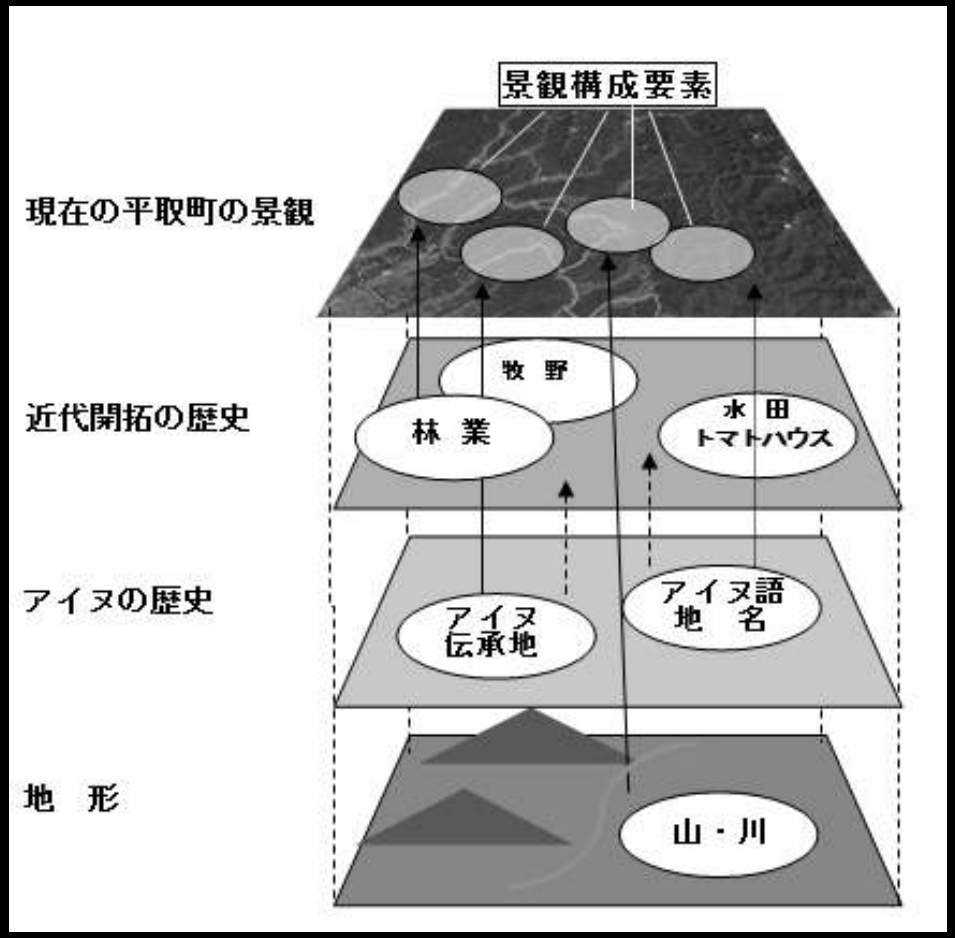


https://minkara.carview.co.jp/userid/380426/blog/36854930/

# 平取町の文化的景観

2007年に全国で三番目の重要文化的景観
「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」

2007年　町有地
2016年　三井物産社有林
2018年　国有林
　　→さらなる追加選定の予定




平取町提供

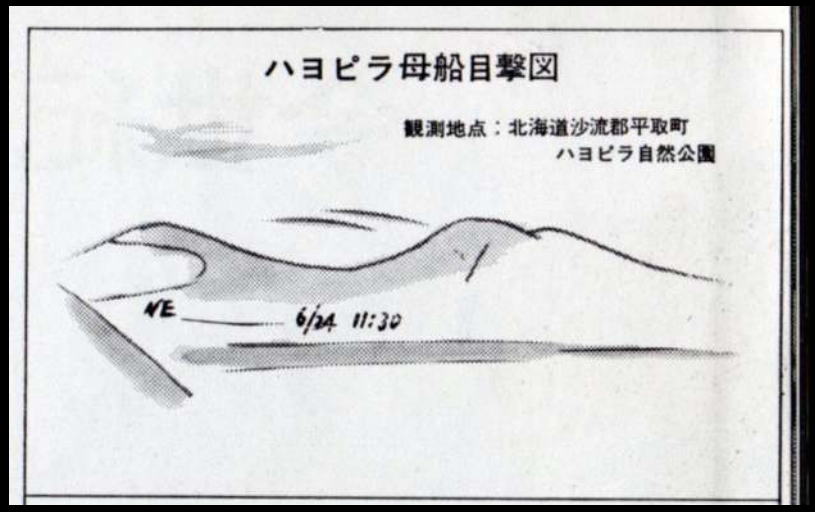
1966 宇宙友好協会「Cosmic Brotherhood Association
（以下CBA）」 がUFO基地「ハヨピラ」を建設
→「宇宙文化遺産」として一大ブームを巻き起こす

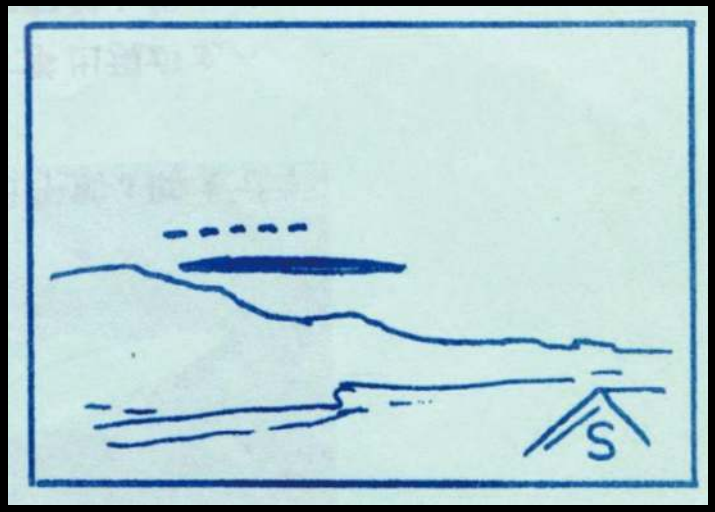
1970年代中頃　UFOブームが去り廃墟化

1994年　平取町「ハヨピラ自然公園」として再開
2003年　台風被害後に閉鎖、再び廃墟化

平取町沙流川歴史館提

# UFO観測地としての賑わい



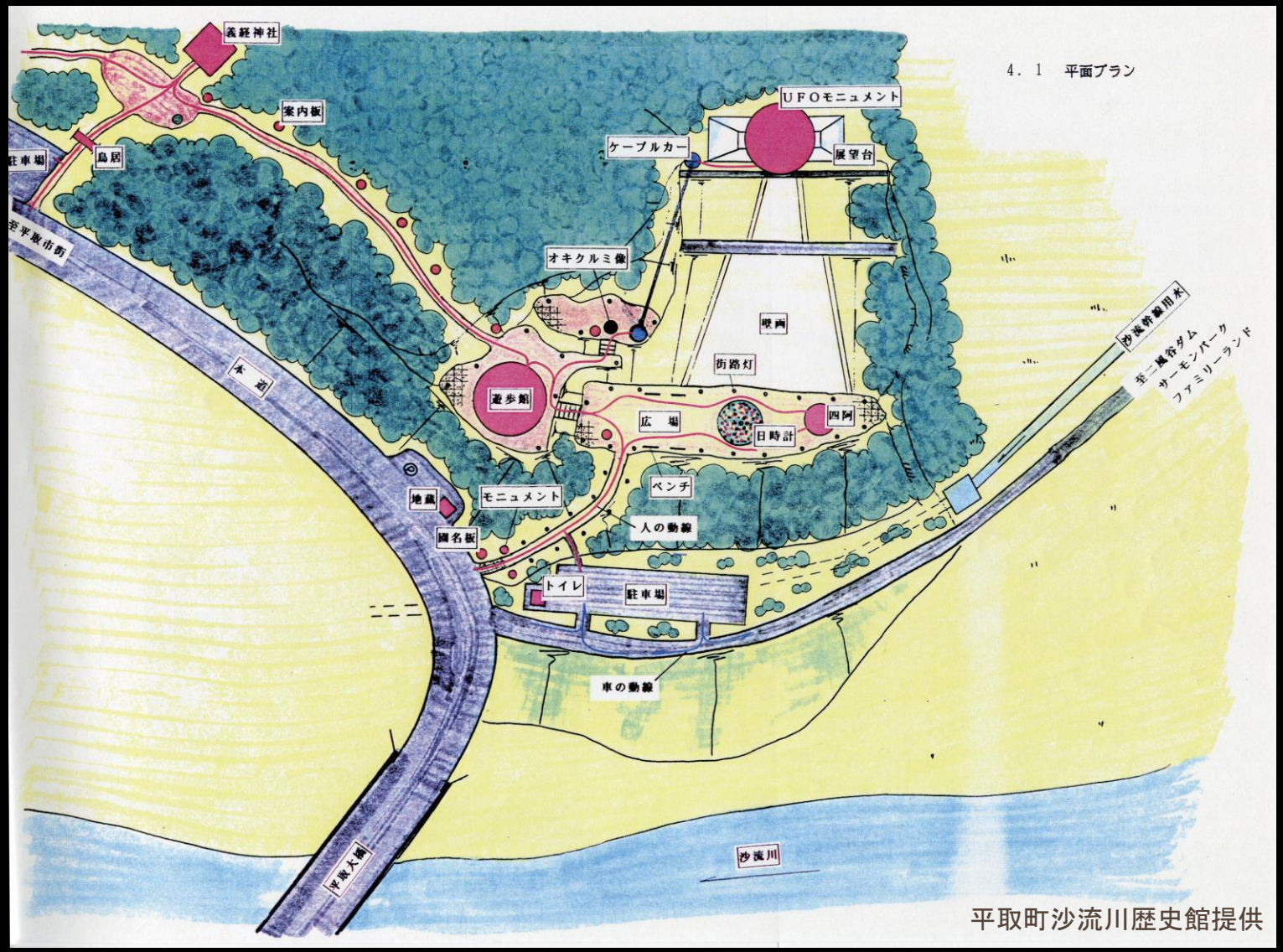

平取町沙流川歴史館提供

# 観光地としての賑わい

平取町沙流川歴史館提供

1965年　北海タイムス「北海道観光百景」の新聞投票で第一位（約10万票）

# ハヨピラ自然公園の整備構想




平取町沙流川歴史館提供

町の観光拠点として、義経神社との一体的な公園計画

# 「ハヨピラ」が無視できない理由

- アイヌの聖地としてのハヨピラ
- 約200年前に創建された義経神社

# アイヌの聖地 ハヨピラ

・アイヌ民族の始祖「オキクルミ」の神が降臨した伝説の地

・オキクルミによって、アイヌに生活や耕作の知恵がもたらされたため「アイヌ民族発祥の地」、「アイヌ文化発祥の地」

平取町沙流川歴史館提供

安政五年（1858）　松浦武四郎が描いたハヨピラの図

# 聖地に作られた義経神社

1799年　北方調査で訪れた幕臣、近藤重蔵がオキクルミは
源義経と同一であるとし、義経像を寄進し社が建てられた

北方開拓のため、「義経北行伝説」 を利用したアイヌ伝承の塗りかえ

# アイヌの聖地と風景変容

| オキクルミ | 源義経 | 宇宙人 |
| --- | --- | --- |
| ハヨピラ | 義経神社 | UFO基地 |

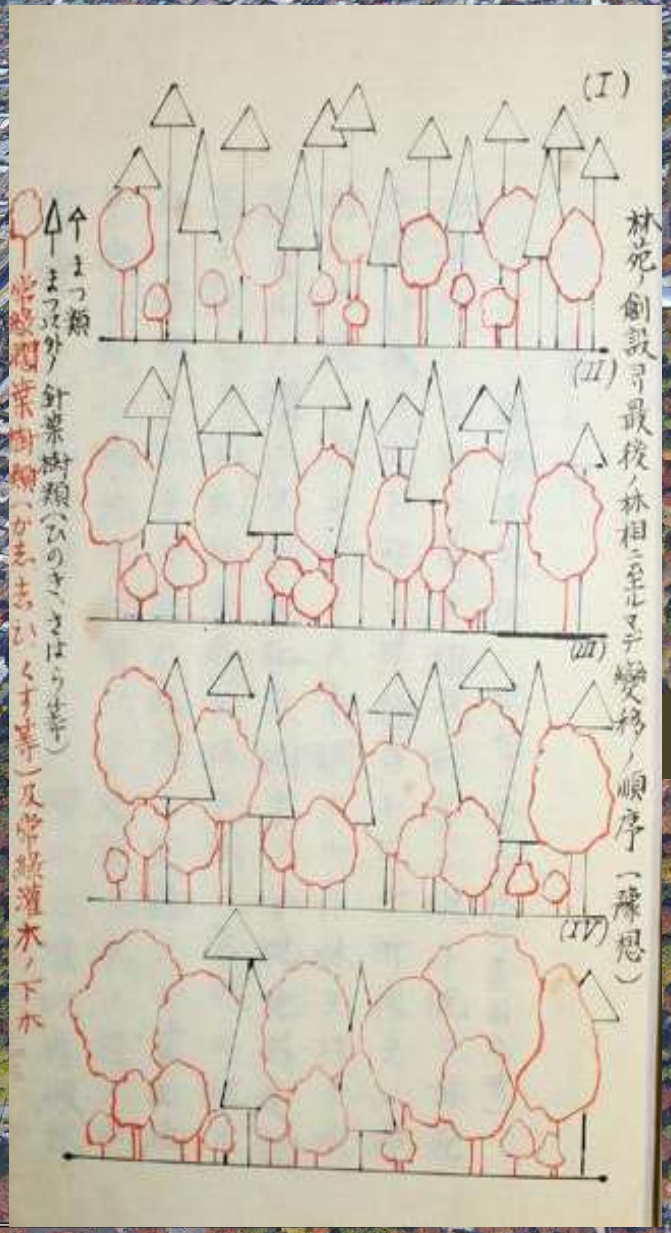
- 聖地の異なる解釈によって生まれた風景
- その集積として広がる景観
- 景観評価に求められる視点とは
- 未来の風景を生み出す基盤としての景観を、私たちはどのように引き継いでいくべきか

# ご静聴ありがとうございました

# 担い手の構想にみる
# 明治神宮の風致演出の空間的要素

水内 佑輔
東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林 生態水文学研究所　助教

# 明治神宮




**1920年鎮座**

明治天皇に相応しい「神社のあるべき姿」が観念され創出された

上原敬二に拠れば、神社に相応しい森として「人為が介入せずとも永久に繁茂する森 ：“永遠の杜”」※が観念され、郷土樹種の天然更新によって維持される森が構想された

## 造成時の課題

－ 荒れ地に6年で森の造成（竣工）
－ 献木という植栽樹種や条件の制約

⇒クロマツ等の移植により対応
⇒植生遷移を織り込んだ100年の計画で対応

※本郷高徳の見解は異なる

Google Earth

## 「永遠の杜」の神社の森としての確からしさ

▽ 神社の起源からの解釈しやすさ

－特別な空間としての森を区画したところ

－「本来」神代ながらの手つかずの森である
との通念があるため

神体林神社：大神神社と三輪山
（奈良県）

▲ 神社の「神聖性」が森の「自然性」によって保たれているという考え方で説得力が高い。神社の森は“原生的な”自然であることが要請

しかし、近年の研究ではこの考えは伝統的なものではなく、明治神宮を起点として始まったという指摘があり、明治神宮の森の新しさが強調される

（近年の見解：畔上直樹（2015）など）

今回の研究目的

担い手の風致演出の構想,神社の空間像について検討

明治神宮造営局参与
林学博士：本多静六

明治神宮造営局参与
工学博士：伊東忠太

結論の先出し

－水系による風致の演出構想

－社殿後背地形による風致演出構想

## ① 境界性の演出のための水系の導入

明治神宮神橋附近

『明治神宮御造営の由来を語る』
（1940）

本多静六

*敷地を決定するに最も重要な条件…**清冽なる谷の流れを渡って先つ精神を清め**…*

*設計に当たつて見ますると云ふと私共第一に困ったのは**伊勢の五十鈴川、日光の大谷川に比較すべき神橋を架ける流れを**作ること…地形を調査すると現在の所よりほかに適当なところがない。*

内宮の宇治橋と五十鈴川

日光の神橋と大谷川

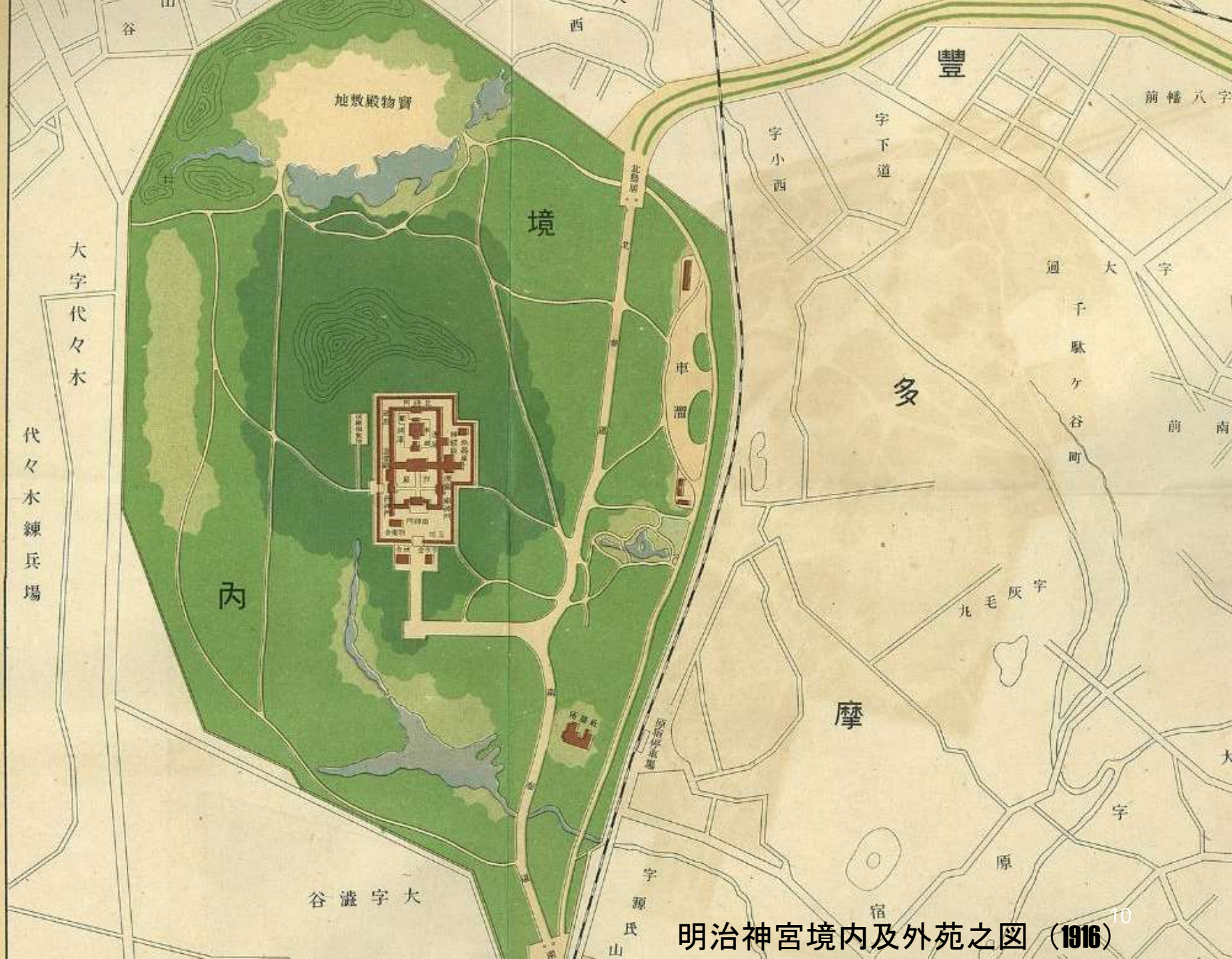
# ② 清らかさの演出のため水系の活用

明治神宮造営局参与
林学博士：本多静六

『明治神宮御造営の由来を語る』（1940）

*日光などにヒントを得たんですが…神宮の周りに水を引いてきて流れを作って…小さな滝をつくってこれを躍らせて参道に湿気を持たせる*

明治神宮境内及外苑之図（1916）




明治神宮境内及外苑之図（1916）

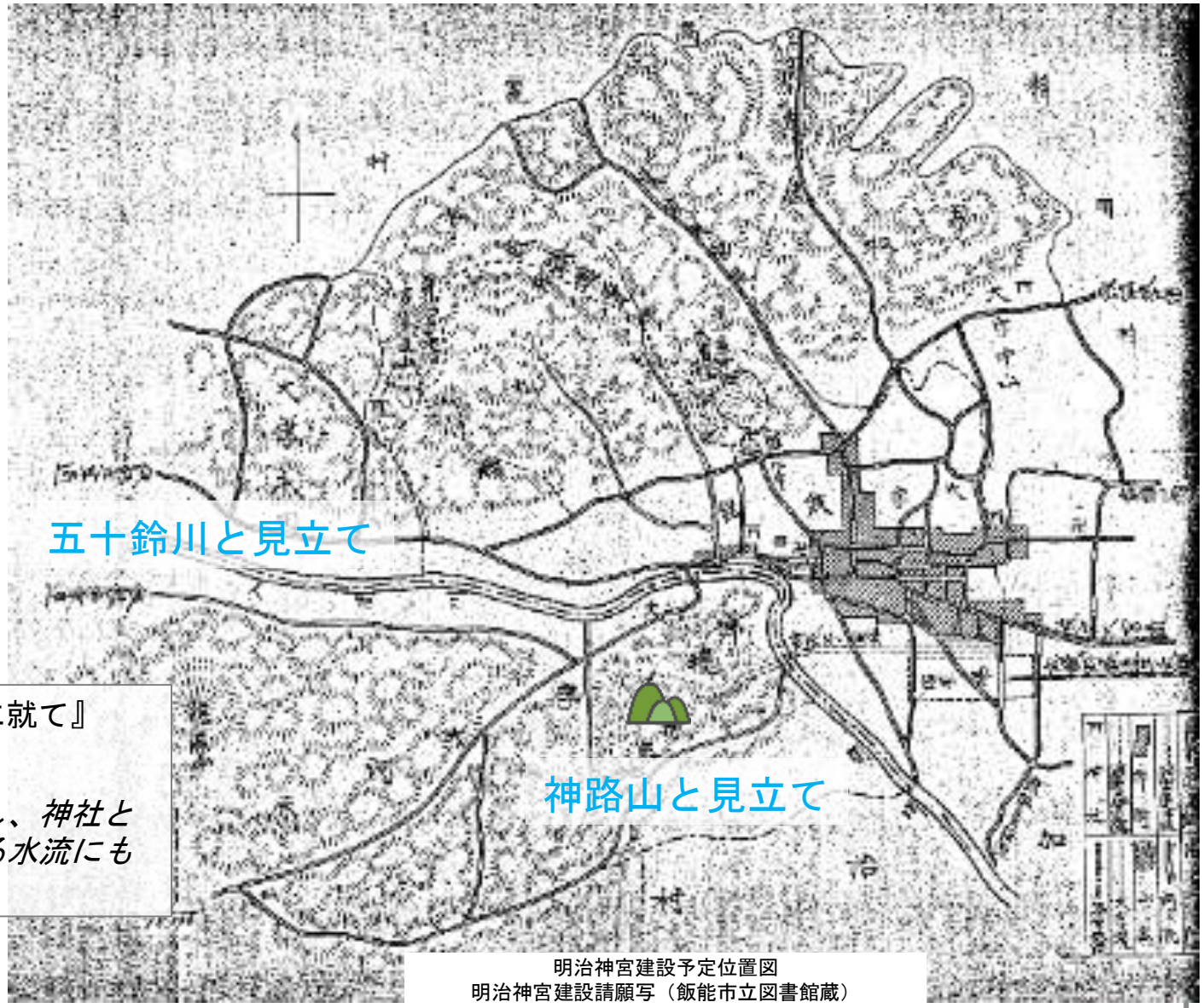
# ③ 囲繞性と「見上げ」のための、社殿後背地の地形

『明治神宮紀』（1920）

*神社の後は小高くせねばならぬ*

明治神宮境内及外苑之図（1916）

明治神宮造営局参与
工学博士：伊東忠太




明治神宮建設予定位置図
明治神宮建設請願写（飯能市立図書館蔵）

『明治神宮社殿の建築に就て』
（1920）

*後ろに山岳の背景を有し、神社として必須欠くべからざる水流にも樹林にも富んでいる*

－明治神宮造営における空間的仕掛けは森だけでなく、**水系**や**地形**による風致演出の構想があった

－伊勢神宮や日光とは異なる新しいコンセプトで造成されたが、森以外については伊勢や日光からの影響が確認される

－参道脇の流れや滝など操作性の高い演出が構想されており、人為との隔絶は明治神宮を全体を通底する設計思想ではない

これらの実現があれば、明治神宮と森のイメージも変わった可能性もあるのではないか

－風致という観点から明治神宮林苑を議論する余地の再確認

213 m
Google Earth

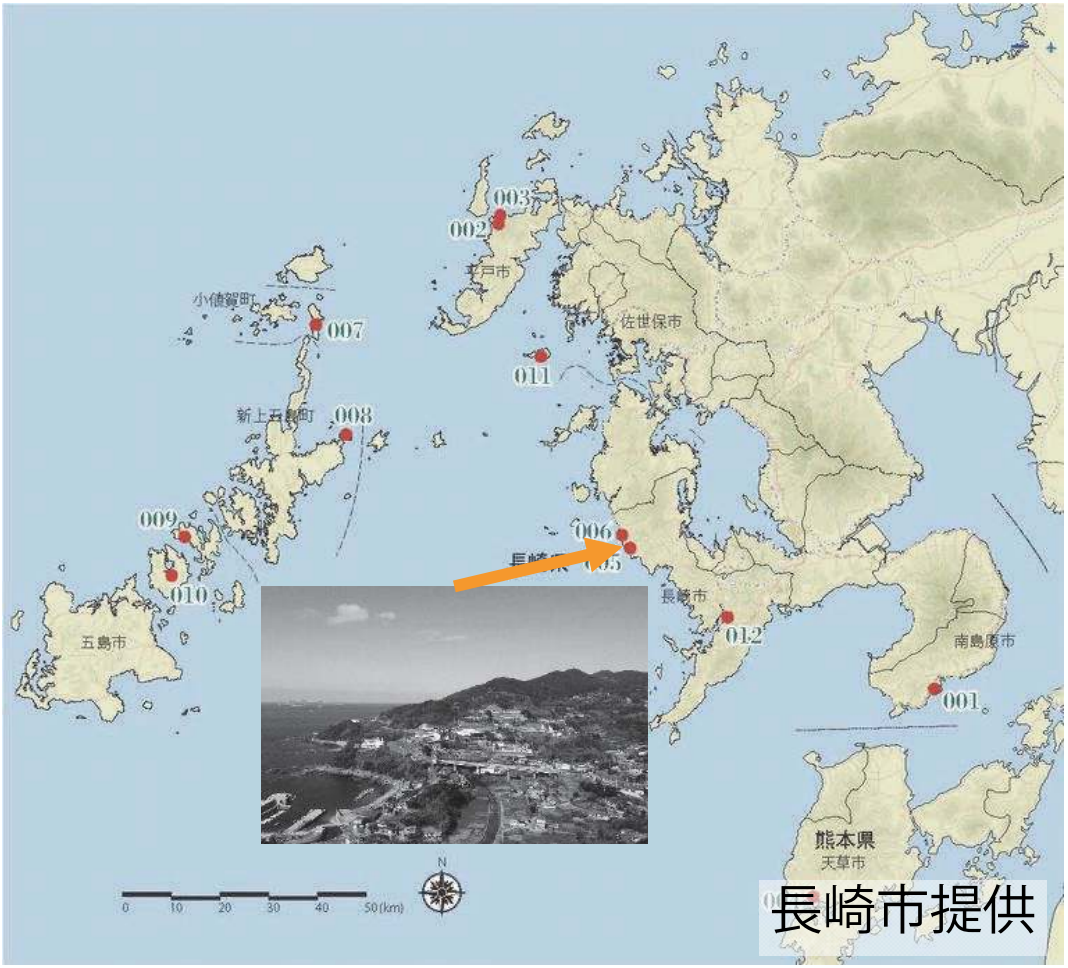
平成31年度　風景計画研究事例・報告会 (於筑波大学)

# 長崎県長崎市外海地区における世界遺産の構成資産の重要文化的景観による保存の実態

長崎市提供

長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
渡辺貴史

# 潜伏キリシタンに関係する景観と世界遺産




長崎市提供

001 原城跡
002 平戸の聖地と集落
（春日集落と安満岳
）
003 平戸の聖地と集落
（中江ノ島）
004 天草の崎津集落
005 外海の出津集落
006 外海の大野集落
007 野崎島の集落跡
008 頭ヶ島の集落
009 奈留島の江上集落
010 久賀島の集落
011 黒島の集落
012 大浦天主堂

2018年6月　「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産一覧表に記載

# 構成資産の保護に係る課題

構成資産については，その本質的価値を構成する諸要素　･･･中略･･･　それらの全てを含む範囲を文化財保護法の下に国宝・重要文化財・史跡・重要文化的景観に指定・選定し，万全の法的保護を講じている。　文化庁・長崎県・熊本県(2017):290p

構成資産　→　集落が多く含まれる

重要文化的景観　→　保護に大きな影響

どのような運用がなされているのか？

# 本報告の目的

12の構成資産のうち2つの構成資産がある長崎県長崎市外海地区 (以下，外海地区)を対象に･･･

世界遺産の構成資産の概要

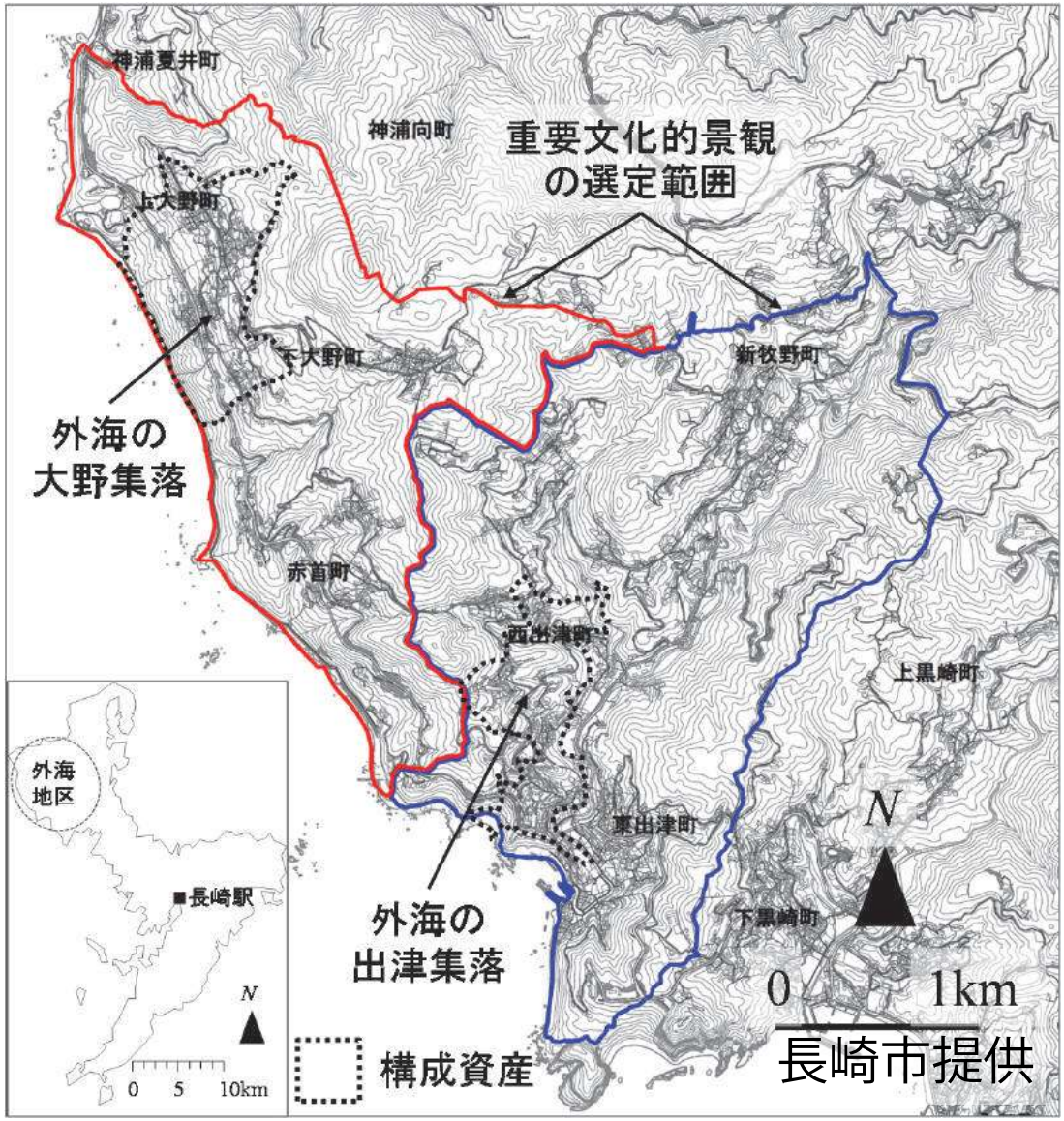
重要文化的景観に係る保存計画の概要

構成資産と保存計画の関係

重要文化的景観による構成資産保護の課題

# 方法(外海地区の概要)

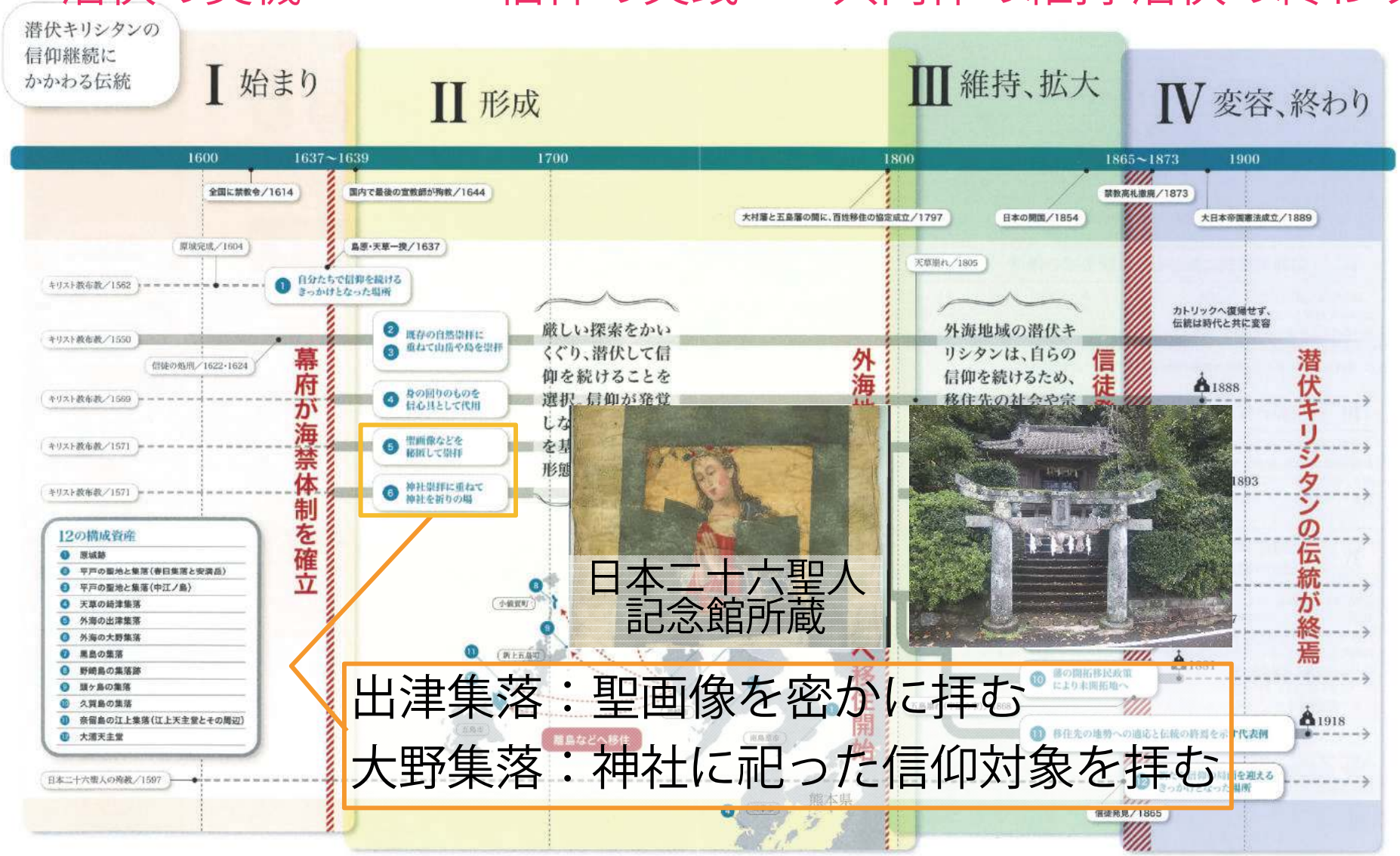
位置：長崎市北西部　　人口：3,491人(2019年3月現在)



# 構成資産の位置付け

「潜伏キリシタン」が，独特の文化的伝統を育んだ証拠

潜伏の契機　　信仰の実践　　共同体の維持 潜伏の終わり

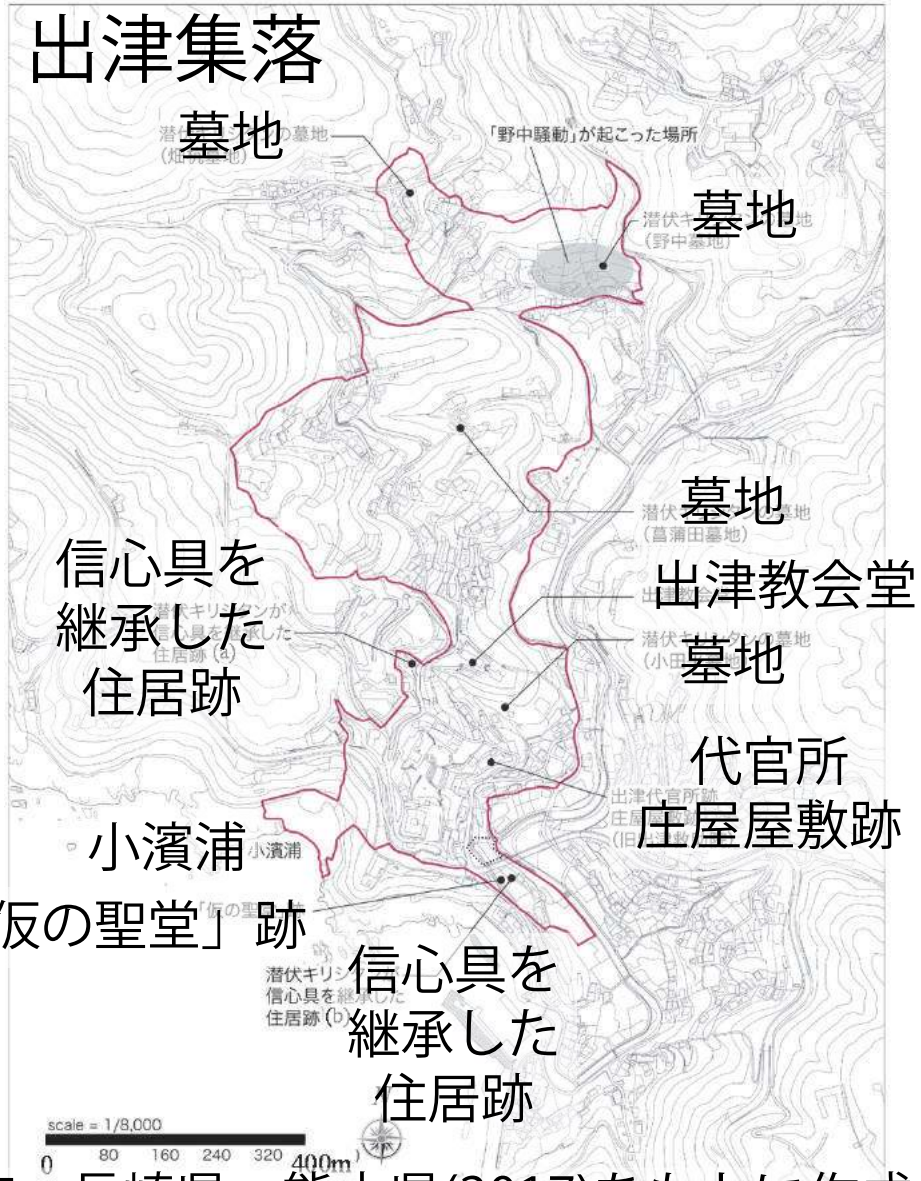



日本二十六聖人記念館所蔵

出津集落：聖画像を密かに拝む

大野集落：神社に祀った信仰対象を拝む

# OUV(顕著な普遍的な価値)に貢献する要素の分布

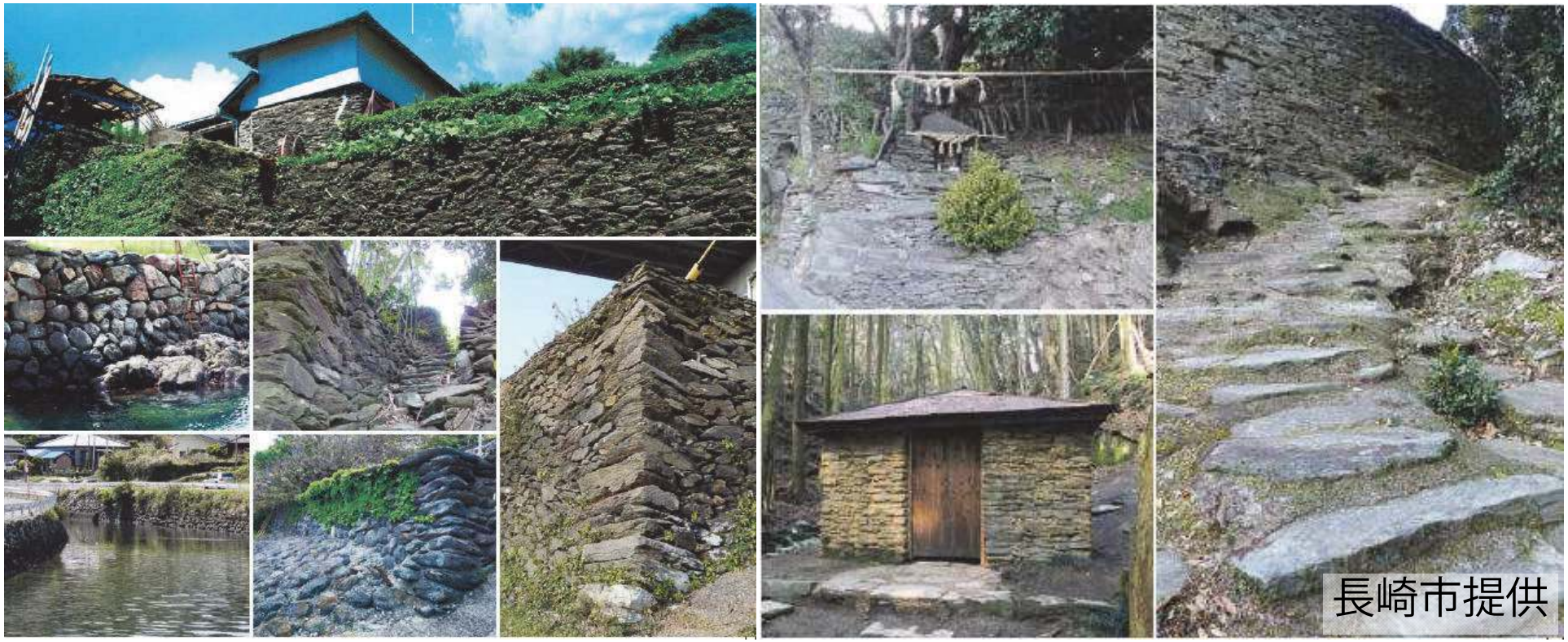



出典：文化庁・長崎県・熊本県(2017)をもとに作成

# 重要文化的景観の特徴

名称：「長崎市外海の石積集落景観」

特徴：17世紀初頭の山頂までの土地開墾 → 扁平で加工しやすい結晶片岩の出土 → 出土した結晶片岩を用いた石積み構造物(石垣，石築地，石塀，石壁等)の形成



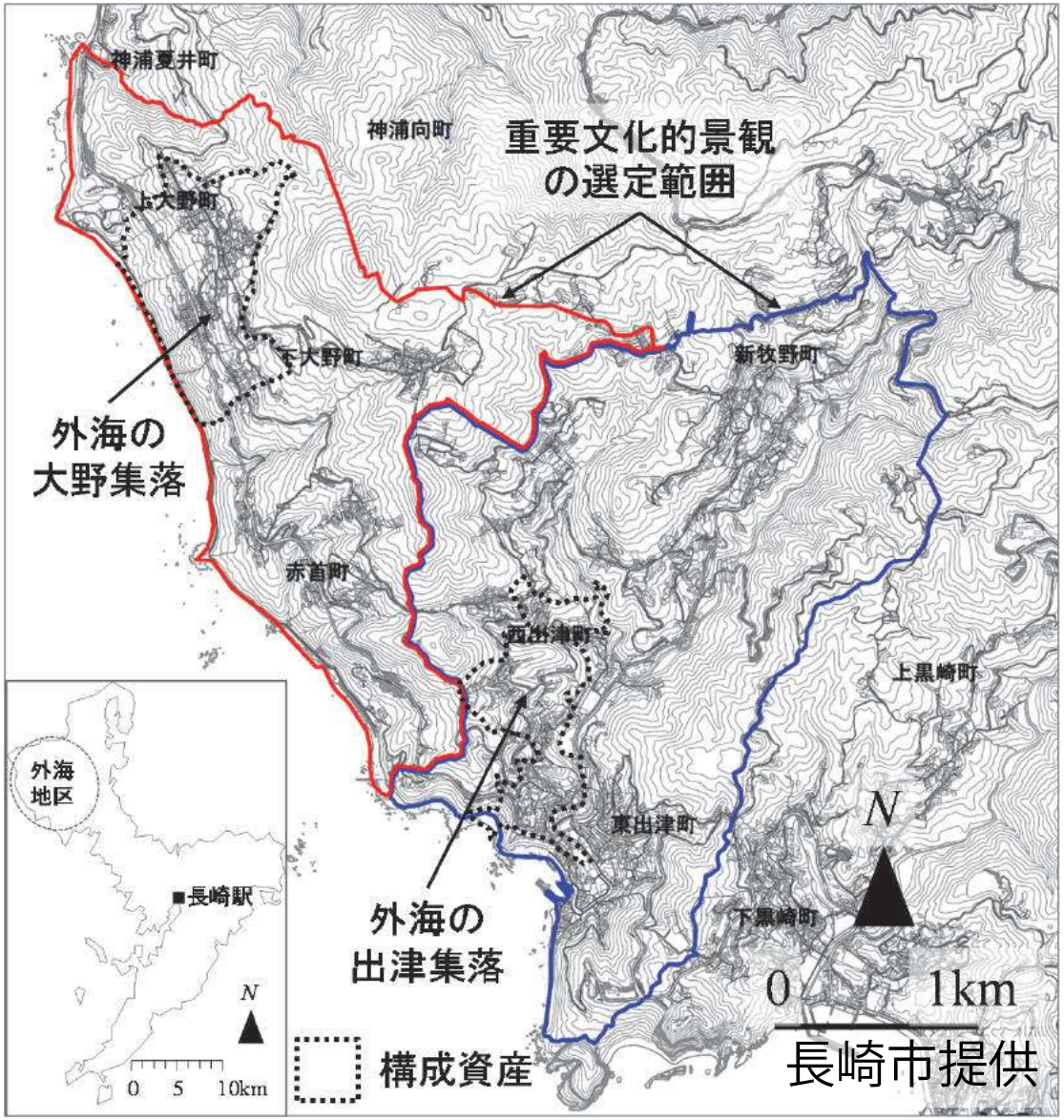
# 重要文化的景観の範囲

・選定基準：一、八

・選定年月日
　選定：
　　2012年9月(出津・牧野(青))
　追加選定：
　　2018年2月（大野・赤首(赤))

・面積：765.7ha

※ほぼ同様な範囲には,景観形成重点地区が指定



# 重要文化的景観の保存に関わる計画

2013年3月「長崎市外海の石積集落景観保存計画」

↓ 運営上の課題(例：保存の対象がわかりづらさ，現状変更の届出内容がわかりづらさ等)の判明

2014年3月「長崎市外海の石積集落景観整備活用計画」

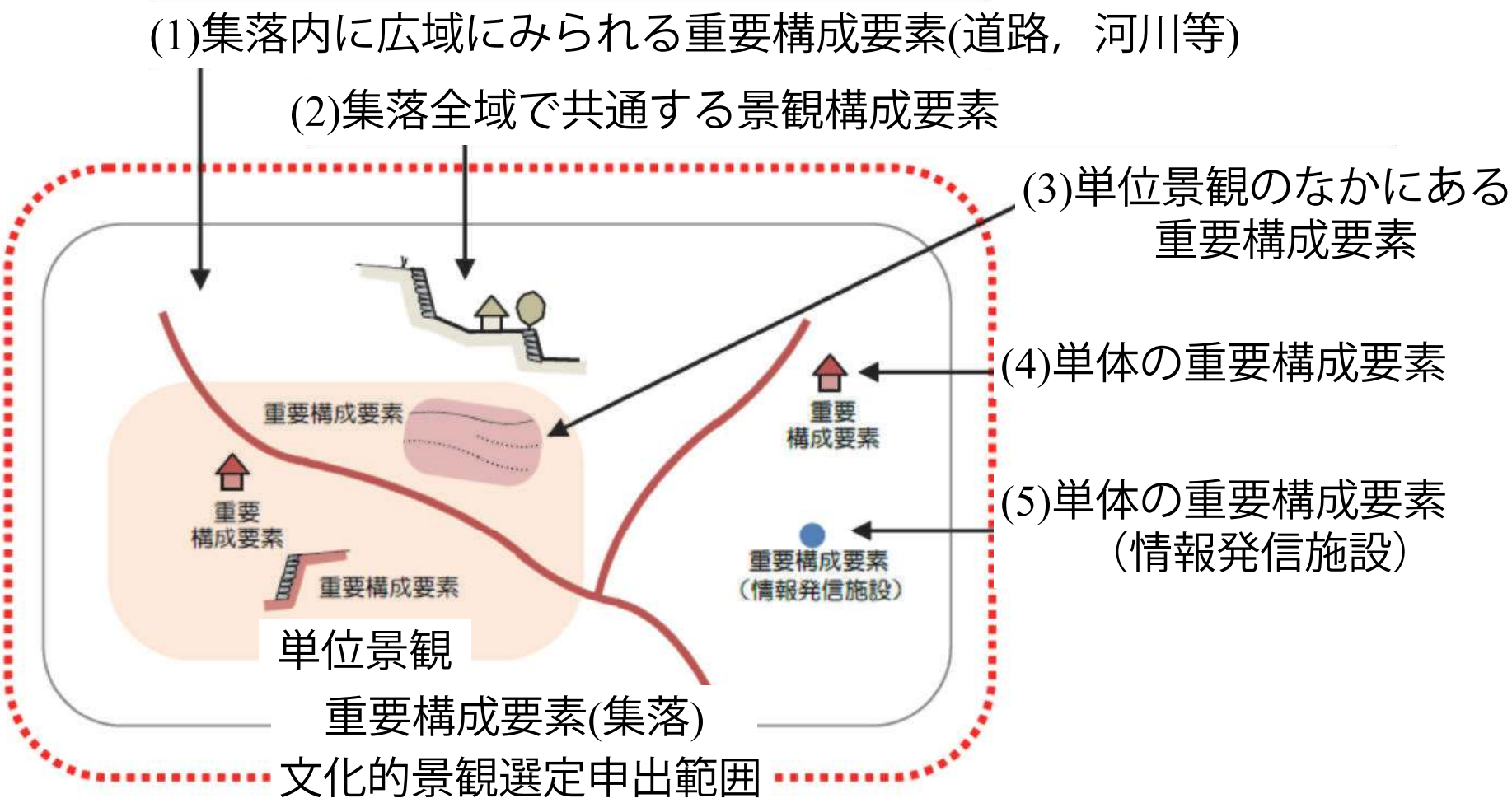
↓ 赤首・大野地区の追加選定

2018年3月「長崎市外海の石積集落景観保存計画」
(赤首・大野地区)

↓

(1)保存の方針，(2)保存の対象，(3)保存の法的措置

# 保存の対象(対象の区分)




出典：長崎市(2013)

# OUVに貢献する要素との関係(出津)

| OUVに貢献する要素 | 対応する構成要素 | 特定される要素 | 該当する区分 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 出津集落(土地利用形態) | 農地 | 集落内の田畑地 | | ○ | | |
| | 石積構造物 | 高平の屋敷石垣 | | | ○ | |
| | | 集落内の石積み | | ○ | | |
| | | 集落内の石階段 | | ○ | ○ | |
| | 建造物 | Y家のネリベイ建物 | | | ○ | |
| | | ネリベイ建物 | | ○ | | |
| | 自然環境 | 二次林 | | ○ | | |
| | | 景観木 | | ○ | | |
| | | 礫浜，砂浜 | | ○ | | |
| | 旧跡 | 藩境石 | | ○ | | |
| | 道 | ド・ロ神父の里道 | | | ○ | |
| | | 野中の古道 | | | ○ | |
| | | 里道 | | ○ | | |
| | 公共施設 | 道路 | ○ | ○ | | |
| | | 河川 | ○ | | | |
| 出津代官所跡庄屋屋敷跡 | キリスト教関連施設 | 旧出津救助院 | | | ○ | |
| | 工作物 | 旧出津救助院のド・ロ壁 | | | ○ | |
| 潜伏キリシタンが信心具を継承した住居跡(a) | ― | ― | | | | |
| 潜伏キリシタンが信心具を継承した住居跡(b) | 農地 | 集落内の田畑地 | | ○ | | |
| 潜伏キリシタンの墓地 | 墓地 | 野中墓地 | | | ○ | |
| | | 集落内の墓地 | | ○ | | |
| | | 集落内の廃絶された墓地 | | ○ | | |
| 小濱浦 | 自然環境 | 礫浜，砂浜 | | ○ | | |
| 「仮の聖堂」跡 | 農地 | 集落内の田畑地 | | ○ | | |
| 出津教会堂 | キリスト教関連施設 | 出津教会 | | | ○ | |
| | 石積構造物 | 出津教会の石垣 | | | ○ | |

OUVに貢献する要素と特定される要素の関係から3タイプに類型

OUVに貢献する要素と特定される要素が一致

OUVに貢献する要素と特定される要素が非一致

OUVに貢献する要素に対する特定される要素が無

# OUVに貢献する要素との関係(大野)

| OUVに貢献する要素 | 対応する構成要素 | 特定される要素 | 該当する区分 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 大野集落(土地利用形態) | 農地 | 段畑 | | | ○ | |
| | | 集落内の耕作地 | | ○ | | |
| | 石積構造物 | 庄屋屋敷跡の石垣 | | | ○ | |
| | | 集落内の石積み | | ○ | | |
| | | 集落内の石階段 | | ○ | ○ | |
| | 建造物 | ネリベイ建物 | | ○ | | |
| | 自然環境 | 二次林 | | ○ | | |
| | | 防風林 | | ○ | | |
| | | 景観木 | | ○ | | |
| | | 礫浜，砂浜 | | ○ | | |
| | 道 | 里道 | | ○ | | |
| | 公共施設 | 道路 | ○ | ○ | | |
| | | 河川・水路 | | ○ | | |
| | 工作物 | 水場(峠の下，草木田，上越首) | | ○ | ○ | |
| 潜伏キリシタンの墓地 | 墓地<br>石積構造物 | 積み石墓 | | | | ○ |
| 門神社 | 宗教関連施設 | 門神社 | | | ○ | |
| 大野神社 | 宗教関連施設 | 大野神社 | | | ○ | |
| | 石積構造物 | 大野神社の境内石垣 | | | ○ | |
| 辻神社 | 宗教関連施設 | 辻神社 | | | ○ | |
| 大野教会堂 | 宗教関連施設<br>石積構造物 | 大野教会堂 | | | | ○ |
| | 石積構造物 | 大野教会堂の境内石垣 | | | | ○ |

OUVに貢献する要素と特定される要素が一致

世界遺産の構成資産と重要文化的景観の設定論拠の相違

# おわりに

重要文化的景観は，世界遺産の構成資産に対して
どのような運用がなされているのか？

↓

重要文化的景観 ＝ 世界遺産の構成資産

重要文化的景観 ≠ 世界遺産の構成資産

重要文化的景観　世界遺産の構成資産

↓

限定的？

↓

現存していない非可視なものをいかに保護

# 参考・引用文献

1)長崎市(2013b):長崎市外海の石積集落景観保存計画,　81pp

2)文化庁・長崎県・熊本県(2017):「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界遺産登録推薦書，290pp

# 名もなき人の風景＝農村生活誌

（柳田国男）

・ふつうの風景の発見

・名もなき人への共感、評価 ……▸ 常民？

ウィリアム・モリス　中世主義 ：中世の暮らしの評価 「人間の発見」⇔産業革命

Philip Webb, Ruskin, Howard, Unwin, The Red House, Arts & crafts, Society for the protection of Ancient Buildings, Lesser arts, Garden city, Garden suburb, The National Trust, Socialist League, Fabian Society

いわゆる歴史：文献が史料、権力者の政治史
首都中心

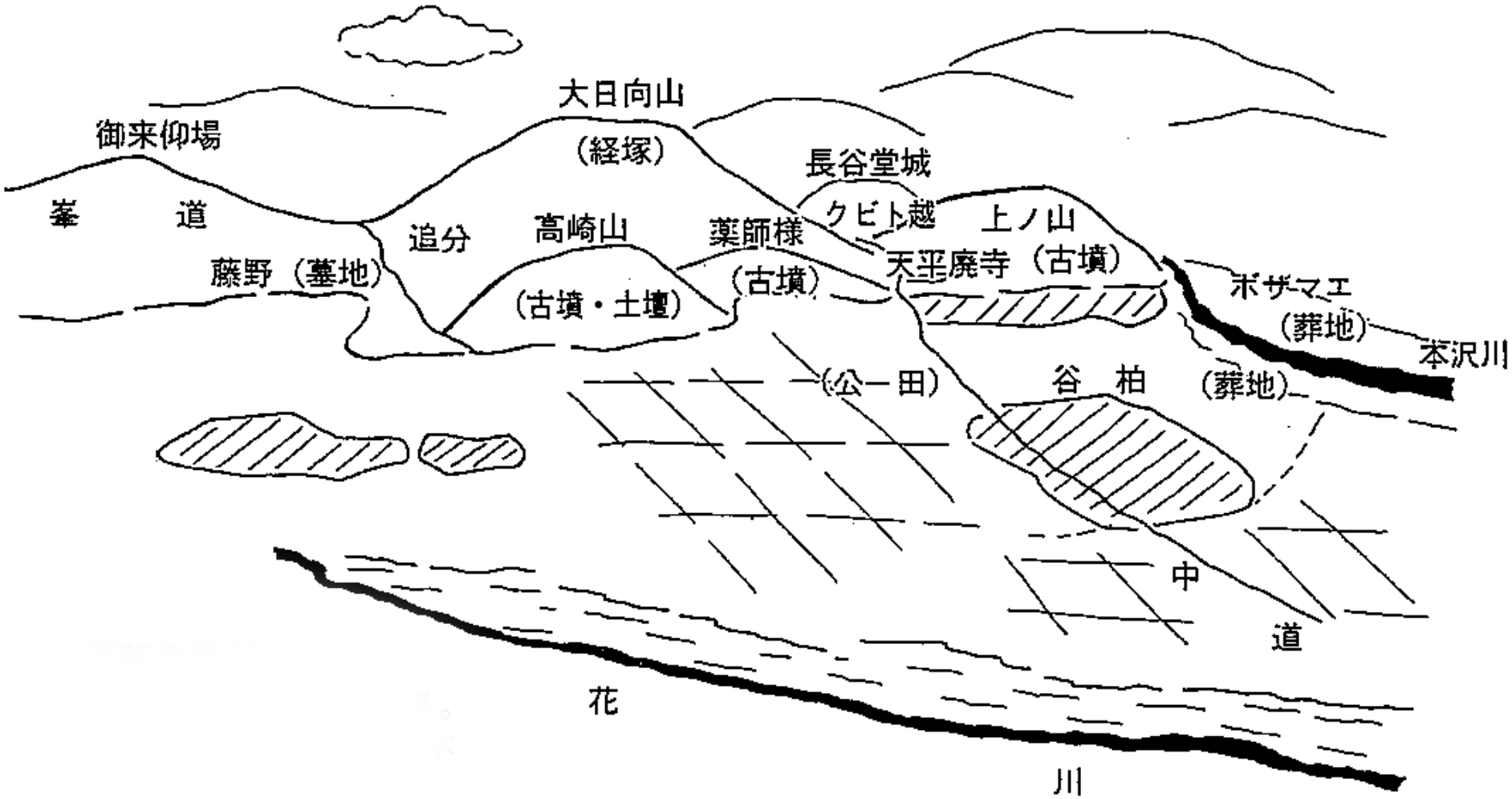
もう1つの歴史：風景が史料、名もなき人の歴史
農山漁村、地方都市

文化財としての風景の否定：柳田国男（柄谷によれば）

（風景は生活・生業が変わるにつれて変化するもの）

⇕

凍結保存・復原


大日向山
(経塚)
御来仰場
峯　道
長谷堂城
クビト越
上ノ山
追分
高崎山
薬師様
天平廃寺
(古墳)
藤野
(墓地)
(古墳・土壇)
(古墳)
ボザマエ
(葬地)
本沢川
(公一田)
谷　柏
(葬地)
中
道
花
川

三森山森供養案内図
閉鎖中
閉鎖中
閉鎖中
閉鎖中
閉鎖中
優婆堂
閻魔堂
大日堂
観音堂
地蔵堂
仲堂
藤墓
阿弥陀堂
8月22日～23日

大施食供養
三森
大施餓鬼供養
西方廣目天王

先祖代
小波渡

旧朝日・櫛引
(山添 黒川)

# 山寺千手院歴史の散歩道

所要時間：約一時間三十分

至 奥の院
鬼岩
奥の院旧参道
天狗岩
修験場
即円寺跡
五輪塔窟
毘沙門天岩
中堂跡
峯の裏遺跡
本坊台座石
馬場跡
阿弥陀屋敷
（本院）
浄土岩
見晴し台
垂水観音
垂水不動尊
円仁宿跡
垂水霊境
烏帽岩
1.弓張岩
2.楯岩
城岩七岩
3.猿岩
垂水参道
4.鏡岩
5.塩岩
6.砦岩
7.甲岩
千手観音
最上三十三観音第二番札所
現根本中堂
牛頭天王祠
山寺霊園
平岩
立谷川
現在地
大駐車場
千手院集会所
山寺駅
紅葉川（旧阿蘇川）
至 面白山
山形市

円仁宿跡
円仁宿跡